

令和6年度老人保健健康増進等事業

「外国人介護人材の介護福祉士国家資格取得の支援強化に関する調査研究事業」

外国人介護福祉士国家試験受験者アンケート 調査結果概要

令和7（2025）年3月

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

1. 調査実施概要

(1) アンケート調査の目的

- 介護職種の技能実習生（以下「技能実習生」という。）及び介護分野の特定技能外国人（以下「特定技能外国人」という。）の中には、日本で長期間就労し続けるため、あるいは将来母国で介護の仕事をする際に役立てるため、介護福祉士国家資格取得を希望する者がいる。
- また、技能実習生や特定技能外国人等の外国人介護人材を受け入れている法人・施設（以下「受入法人・施設」という。）も、職場への定着及び長期にわたる就労を望んでいる現状がある。そのため、介護福祉士国家資格取得に係る支援は、外国人介護人材の定着を図る上でますます重要となってきている。
- 本調査では、外国人介護人材の介護福祉士国家資格取得に係る支援のあり方について検討する際の基礎資料を得るため、第36回介護福祉士国家試験（2024年1月実施）を受験した外国人介護人材の属性等についてアンケート調査を実施した。
- また、本アンケート調査の回答と第36回介護福祉士国家試験の合否等に係るデータを紐づけ、合格者・不合格者それぞれの実態等を分析した。

<本アンケート調査で把握したいこと>

- 介護福祉士国家試験を受験した外国人介護人材の実態（合格者、不合格者はそれぞれどのような人材か）
- 合格者に対するどのような支援が効果的であったか。
- 不合格者の課題は何か。（何が合格のボトルネックになっているか）

1. 調査実施概要

(2) 調査対象

- 第36回介護福祉士国家試験を受験した外国人（7,735人）のうち、第36回介護福祉士国家試験の受験申込み時に、EPA介護福祉士候補者、介護福祉士養成校の留学生・卒業生、技能実習生、特定技能外国人であった5,975人。
- 調査対象者5,975人については、公益財団法人社会福祉振興・試験センター（以下「社会福祉振興・試験センター」という。）より、第36回介護福祉士国家試験受験者の属性に係るデータの提供を受け、以下の条件にあてはまるデータを抽出した。

< 第36回介護福祉士国家試験受験者の構成 >

属性	人数 (単位：人)	割合（単位：％）	
		受験者全体に 対する割合	本アンケート調査の 対象者に対する割合
受験者全体（外国人以外も含む。）	74,595	100.0	
うち、日本人	66,860	89.6	
うち、外国人（本籍地が無国籍の1名を含む。）	7,735	10.4	
うち、本アンケート調査の対象者	5,975	8.0	100.0
うち、EPA介護福祉士候補者（元EPA介護福祉士候補者を含む）	521	0.7	8.7
うち、過去受験なし	178	0.2	3.0
うち、過去受験あり	343	0.5	5.7
うち、特定技能外国人	1,950	2.6	32.6
うち、技能実習生	596	0.8	10.0
うち、介護福祉士養成校の留学生（卒業見込み）及び卒業生	2,908	3.9	48.7
うち、留学生（卒業見込み）	1,821	2.4	30.5
うち、卒業生	1,087	1.5	18.2
うち、過去受験なし	60	0.1	1.0
うち、過去受験あり	1,027	1.4	17.2

1. 調査実施概要

(3) 調査方法

- WEBによるアンケート調査。
- 介護福祉士国家試験受験者の情報を取り扱う社会福祉振興・試験センターの委託事業者より、アンケート調査の依頼文、アンケート調査票のURL、二次元コード、及び第36回介護福祉士国家試験の受験番号（本アンケート調査におけるID番号）を記載したはがき（以下「依頼状はがき」という。）を郵送した。
- 調査対象者には、アンケート調査票のURLからアクセスするか、二次元コードを読み取り、回答して頂いた。

(4) 調査実施期間

- 2024年12月20日～2025年1月14日

(5) 回収結果

- 配付数：5,975件
- 宛先不明等による依頼状はがきの戻り（2025年1月31日まで）：456件
- 有効回収数：1,131件（有効回答率：20.5%）

1. 調査実施概要

<（参考）社会福祉振興・試験センターから提供を受けたデータ>

- 試験回数（第36回）
- 受験番号
- 性別
- EPAフラグ（該当・非該当）
- 本籍地コード
- ルビフラグ（ふりがな申請あり・ふりがな申請なし）
- 資格該当区分
- 期限登録付きフラグ（養成施設ルートで介護福祉士の期限付き登録をしている）
- 証明書免除の有無（過去受験あり・過去受験なし）
- 筆記試験合否フラグ（合格・不合格）
- 合計得点、11科目群別の内訳
- 留学フラグ（留学生・留学生ではない）

2. 主な調査結果

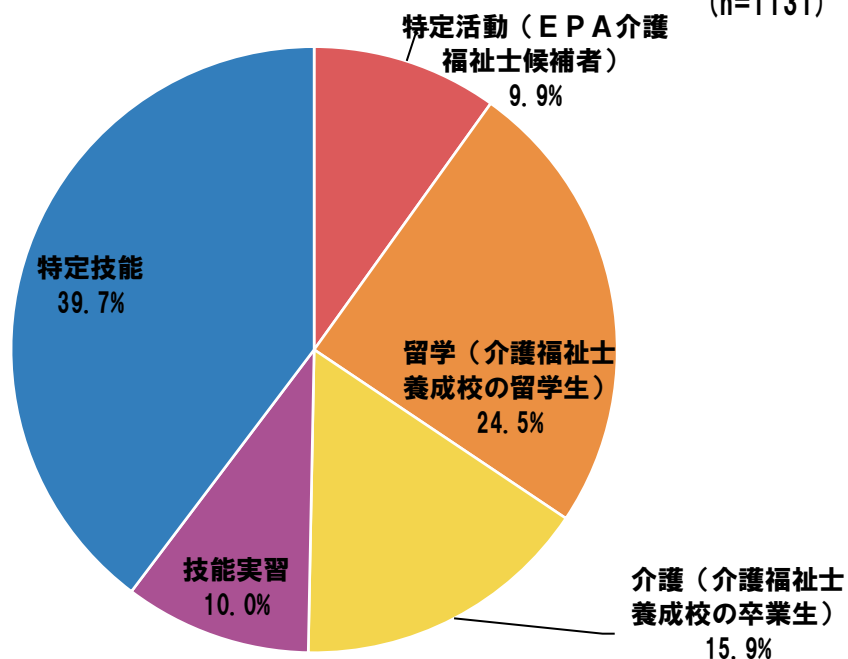
(1) 国家試験申込時の在留資格

回答者（1,131人）の在留資格は「特定技能」が約4割。

- 在留資格は「特定技能」の割合が最も高く39.7%だった。次いで、「留学(介護福祉士養成校の留学生：卒業見込)」が24.5%、「介護(介護福祉士養成校の卒業生)」が15.9%、「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」が9.9%だった。

図表1 国家試験申込時の在留資格

(n=1131)



（注1）アンケート調査では国家試験受験時の在留資格を尋ねたが、社会福祉振興・試験センターのデータ（第36回介護福祉士国家試験（2024年1月実施）の申込時の在留資格）と異なる回答は、社会福祉振興・試験センターのデータと同じ回答に修正した。

（注2）「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」には元EPA介護福祉士候補者も含む。元EPA介護福祉士候補者については、特定活動（EPA）の在留資格が切れた後に特定技能に切り替わるが、介護福祉士国家試験の受験申請時には全員「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」の枠組みで受け付けている。

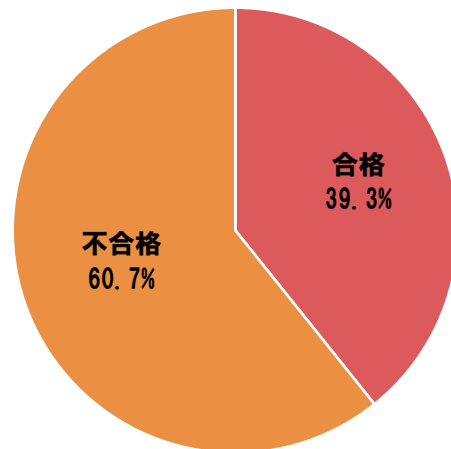
2. 主な調査結果

(2) 国家試験の合否

合格者の割合は、介護福祉士養成校の留学生（留学：卒業見込）で高く、卒業生（介護）で低い。

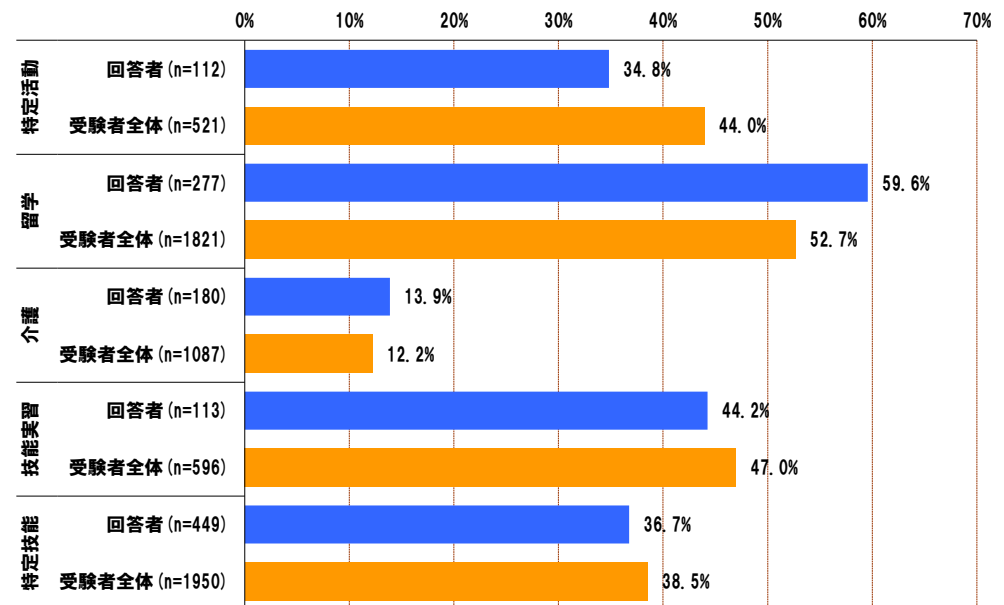
- 在留資格別に介護福祉士国家試験（筆記試験）の合格者の割合をみると、「留学(介護福祉士養成校の留学生：卒業見込) (59.6%)」、「技能実習 (44.2%)」、「特定技能 (36.7%)」、「特定活動 (EPA介護福祉士候補者) (34.8%)」の順。「介護(介護福祉士養成校の卒業生) (13.9%)」の割合が低い。

図表2 国家試験（筆記試験）の合否
(n=1,131) (Q1)



(注) 第36回介護福祉士国家試験における筆記試験の合否。実技を含めた最終合否ではないため、厚生労働省による合格発表時のプレス資料とは必ずしも一致しない。

図表3 在留資格別 国家試験（筆記試験）の合格者の割合 (Q1)



(注) 「特定活動 (EPA介護福祉士候補者)」には元EPA介護福祉士候補者も含む。元EPA介護福祉士候補者については、特定活動 (EPA) の在留資格が切れた後に特定技能に切り替わるが、介護福祉士国家試験の受験申請時には全員「特定活動 (EPA介護福祉士候補者)」の枠組みで受け付けている。

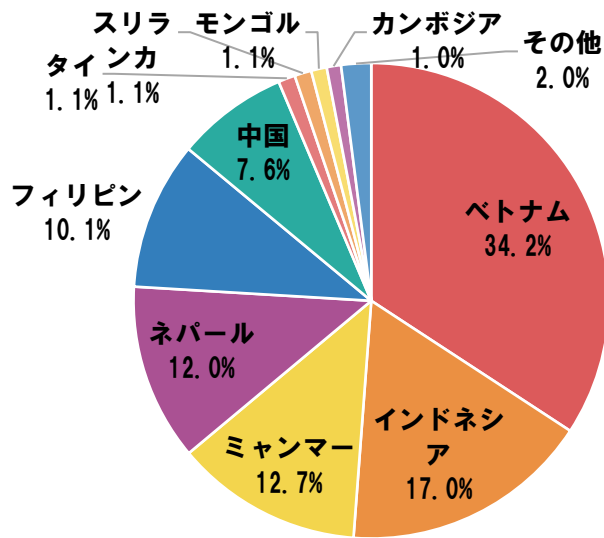
2. 主な調査結果

(3) 出身国・地域

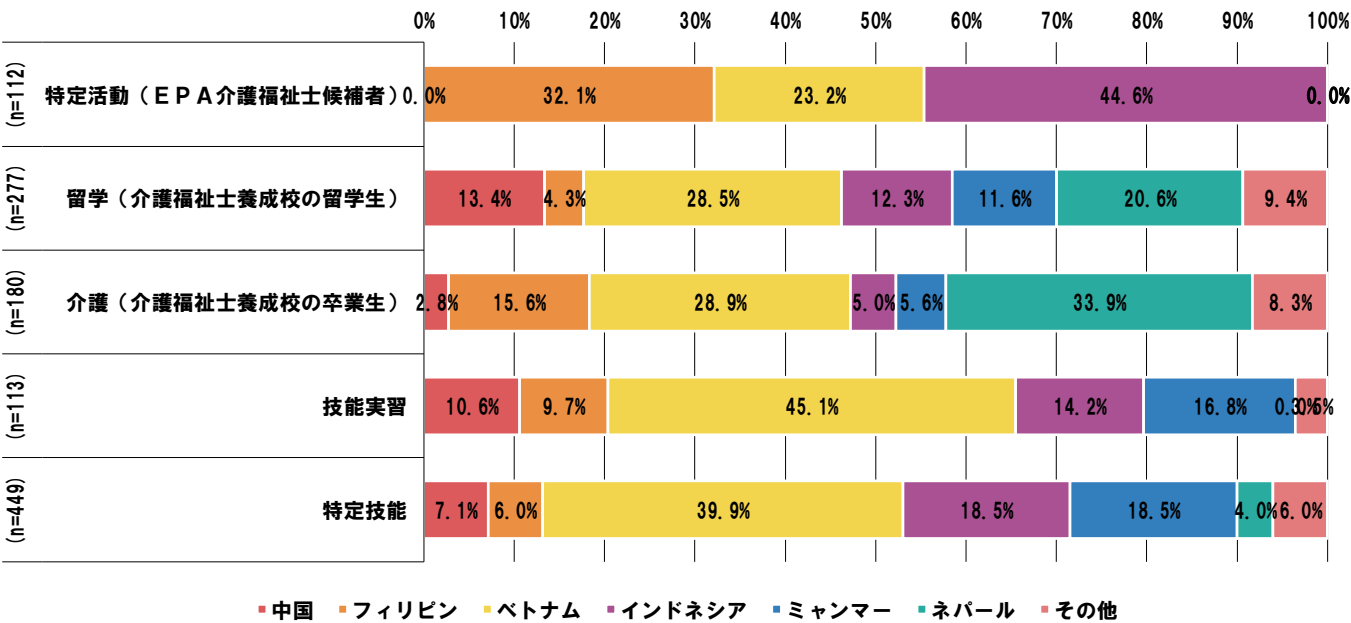
特定活動では「インドネシア」、留学・技能実習・特定技能では「ベトナム」、介護では「ネパール」の出身者が多い。

- 特定活動で「インドネシア」は44.6%、留学で「ベトナム」は28.5%、介護で「ネパール」は33.9%、技能実習で「ベトナム」は45.1%、特定技能で「ベトナム」は39.9%

図表4 出身国・地域 (n=1,131)



図表5 在留資格別 出身国・地域



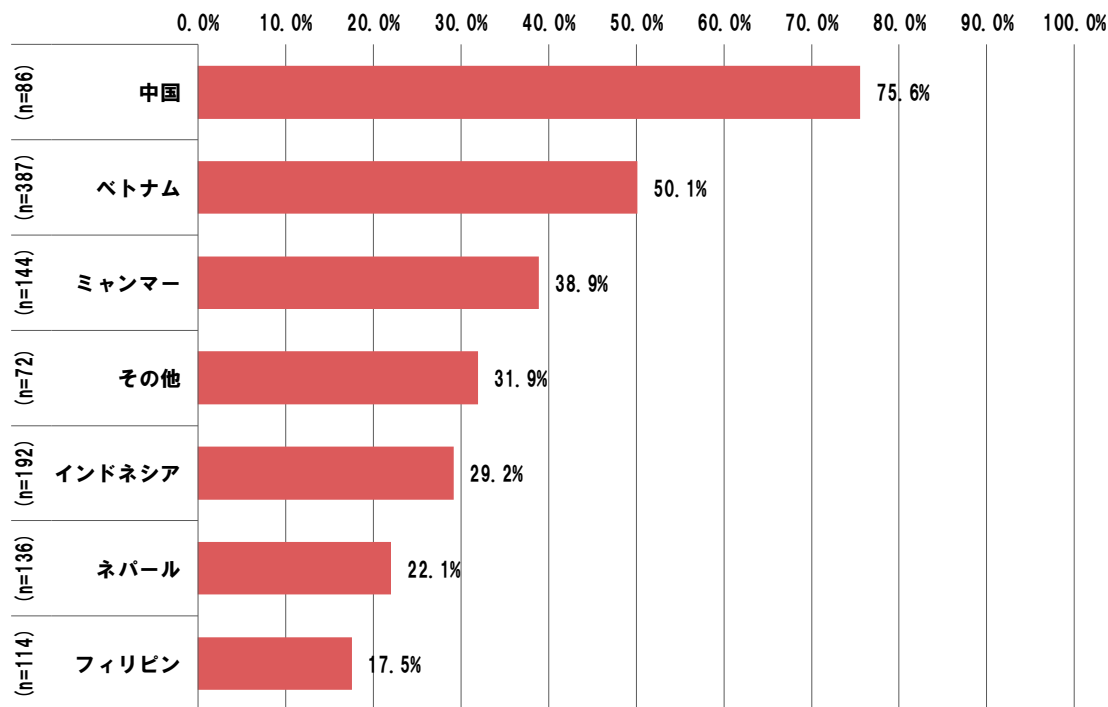
(注) 「その他」に含まれる国はバングラデシュ、ブータン、韓国、マレーシア、キルギス、ウズベキスタン、カザフスタンである。

2. 主な調査結果

出身国・地域別にみると、国家試験合格者の割合は中国で高く、フィリピンで低い。

- 回答者全体での中国出身者（86人）のうち合格者は75.6%、フィリピン出身者（114人）のうち17.5%

図表6 出身国・地域別 国家試験（筆記試験）
合格者の割合（回答者全体）



（注）第36回介護福祉士国家試験における筆記試験の合否。
実技を含めた最終合否ではないため、厚生労働省による合格発表時のプレス資料とは必ずしも一致しない。

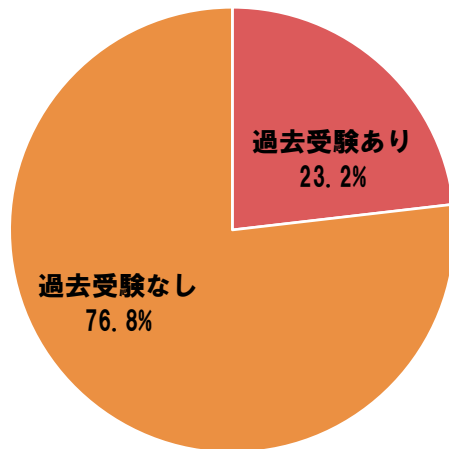
2. 主な調査結果

(4) 過去の受験経験の有無

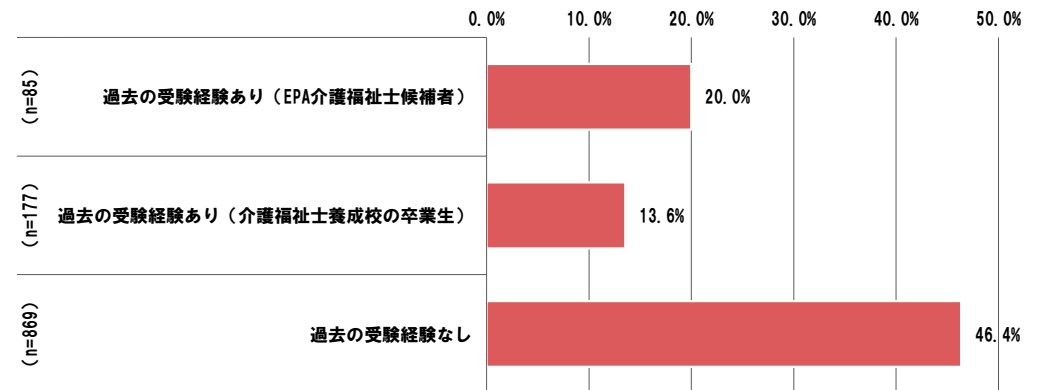
再受験者（EPA介護福祉士候補者、介護福祉士養成校の卒業生）の合格率は2割以下。

- 再受験者（過去受験あり）の人数は回答者全体（1,131人）の23.2%。
- 過去の受験経験の有無別に合格率をみると、「過去の受験経験あり（EPA介護福祉士候補者）」で20.0%、「過去の受験経験あり（介護福祉士養成校の卒業生）」で13.6%、「過去の受験経験なし」で46.4%

図表7 過去の受験経験の有無（n=1,131）



図表8 過去の受験経験の有無別 国家試験（筆記試験）の合否



（注1）第36回介護福祉士国家試験における筆記試験の合否。実技を含めた最終合否ではないため、厚生労働省による合格発表時のプレス資料とは必ずしも一致しない。

（注2）「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」には元EPA介護福祉士候補者も含む。元EPA介護福祉士候補者については、特定活動（EPA）の在留資格が切れた後に特定技能に切り替わるが、介護福祉士国家試験の受験申請時には全員「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」の枠組みで受け付けている。

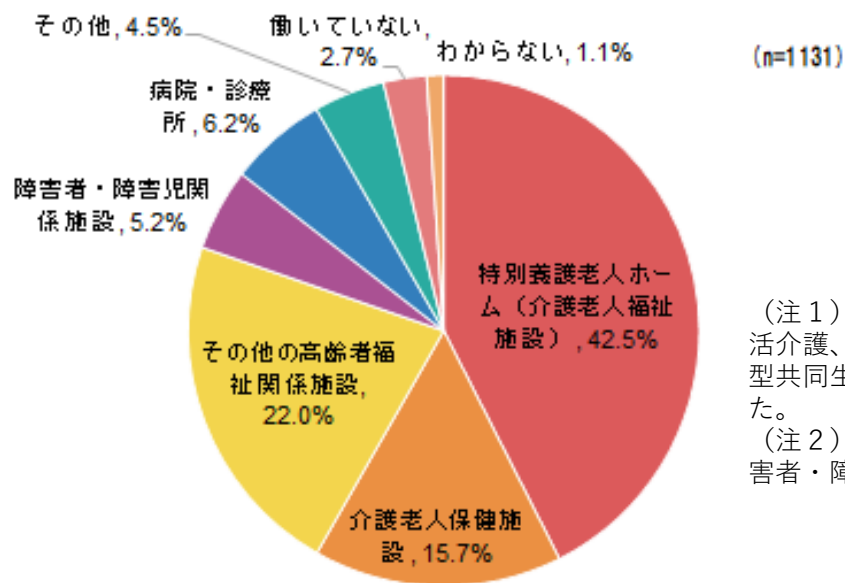
2. 主な調査結果

(5) 国家試験受験時に働いていた施設・事業所 (Q6)

特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）で就労していた人が約4割。

- 国家試験受験時に働いていた施設・事業所を単一回答で尋ねたところ、「特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）」の割合が最も高く42.5%だった。次いで、「介護老人保健施設（15.7%）」、「認知症対応型共同生活介護（6.3%）」だった。

図表9 国家試験受験時に働いていた施設・事業所 (n=1,131) (Q6)



（注1）「その他の高齢者福祉関係施設」には、通所介護、通所リハビリテーション、短期入所生活介護、特定施設入居者生活介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護、看護小規模多機能型居宅介護、介護医療院、その他の高齢者福祉関係施設を含めた。

（注2）「障害者・障害児関係施設」には、障害者支援施設、共同生活援助、生活介護、その他障害者・障害児関係施設を含めた。

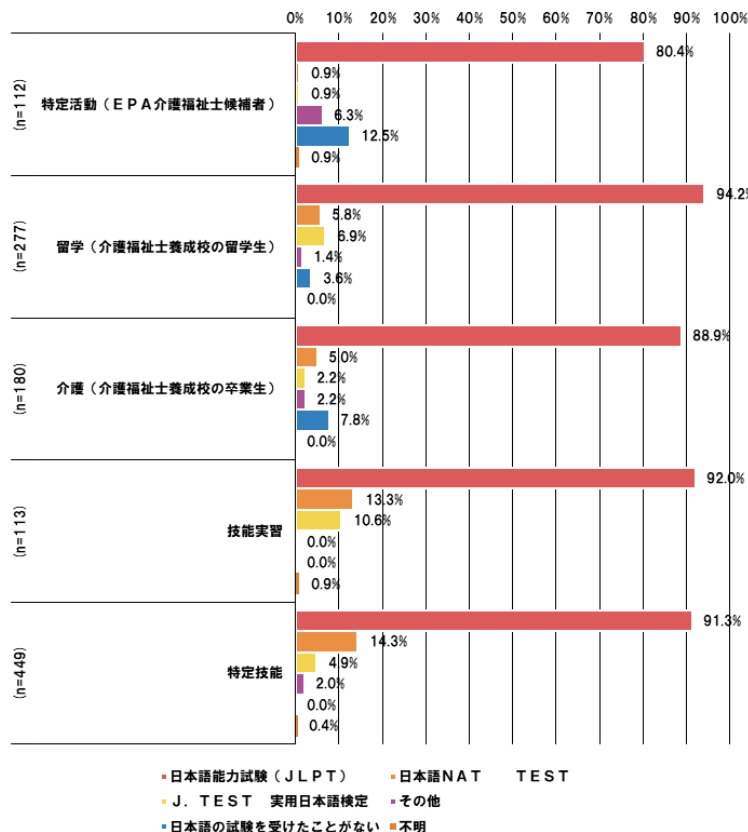
2. 主な調査結果

(6) 日本語能力 (Q2、Q2-1)

国家試験受験前に受けたことがある日本語の試験は「日本語能力試験 (JLPT)」が多数を占める。

- 「日本語能力試験 (JLPT)」の割合は、特定活動 (EPA介護福祉士候補者) で80.4%、留学 (介護福祉士養成校の留学生：卒業見込) で94.2%、介護 (介護福祉士養成校の卒業生) で88.9%、技能実習で92.0%、特定技能で91.3%

図表10 在留資格別 国家試験受験前に受けたことがある日本語の試験 (Q2) (複数回答)



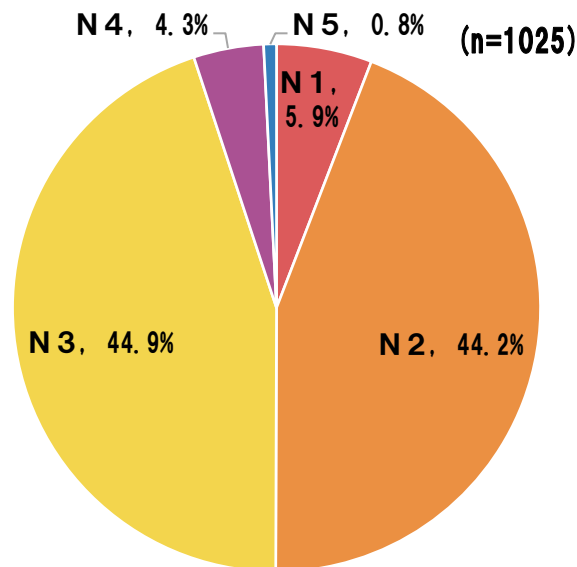
(注) 「特定活動 (EPA介護福祉士候補者)」には元EPA介護福祉士候補者も含む。元EPA介護福祉士候補者については、特定活動 (EPA) の在留資格が切れた後に特定技能に切り替わるが、介護福祉士国家試験の受験申請時には全員「特定活動 (EPA介護福祉士候補者)」の枠組みで受け付けている。

2. 主な調査結果

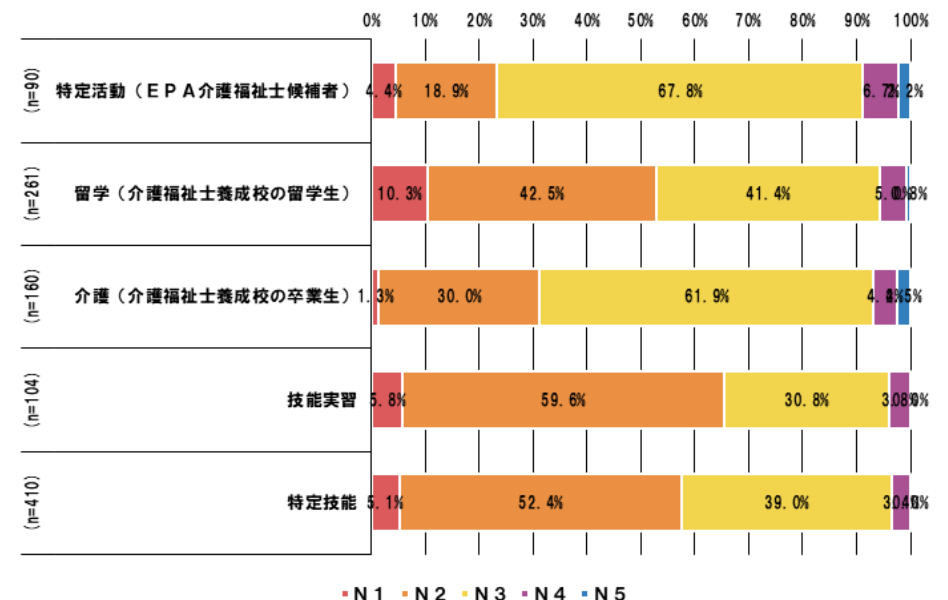
「日本語能力試験（JLPT）」で「N2」もしくは「N3」に合格している者が多い。

- 日本語能力試験（JLPT）を受けたと回答した人（1,025人）のうち、「N3」が44.9%、「N2」が44.2%
- 在留資格別にみると、特定活動と介護では「N3」、技能実習と特定技能では「N2」が半数超。

図表11 日本語能力試験（JLPT）で合格したレベル
(n=1,025) (Q2-1)



図表12 在留資格別 日本語能力試験（JLPT）で合格したレベル (Q2-1)



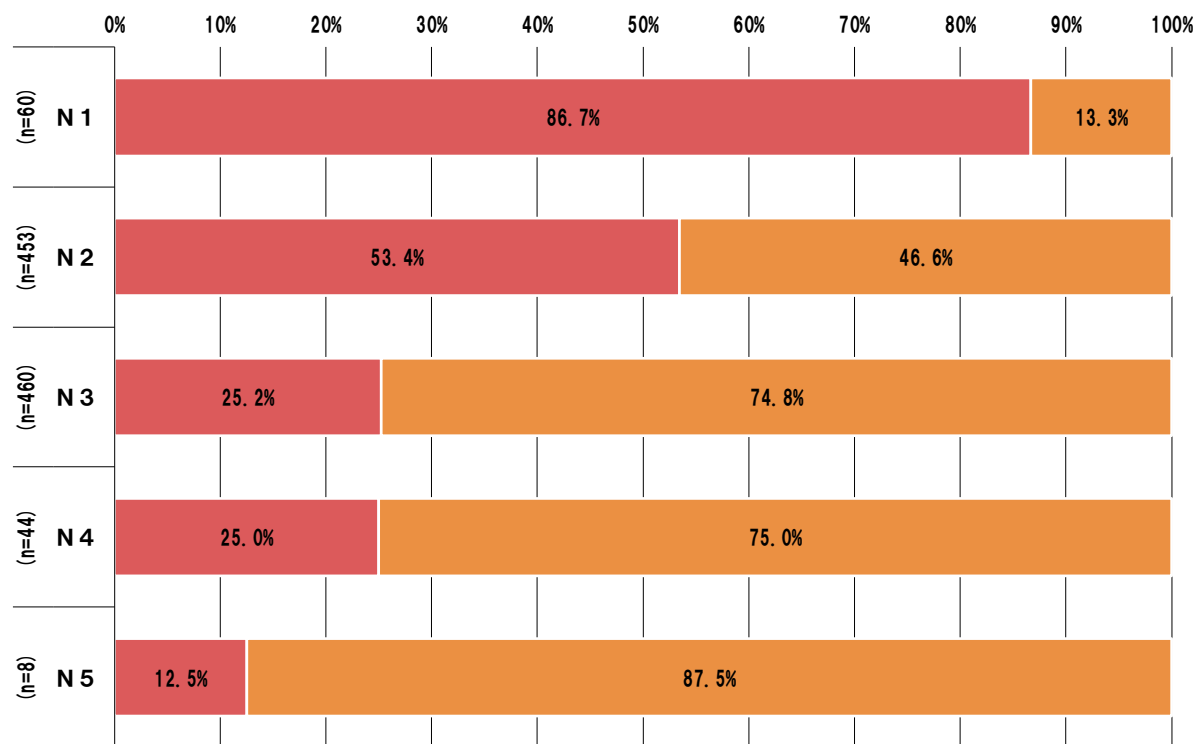
（注）「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」には元EPA介護福祉士候補者も含む。元EPA介護福祉士候補者については、特定活動（EPA）の在留資格が切れた後に特定技能に切り替わるが、介護福祉士国家試験の受験申請時には全員「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」の枠組みで受け付けている。

2. 主な調査結果

「日本語能力試験（JLPT）」のレベルが高いほど、国家試験の合格率が高い。

- 日本語能力試験（JLPT）で合格したレベル別に国家試験の合格率をみると、「N1」で86.7%、「N2」で53.4%だった。

図表13 日本語能力試験のレベル別 国家試験（筆記試験）の合否（Q2-1）



■ 合格 ■ 不合格

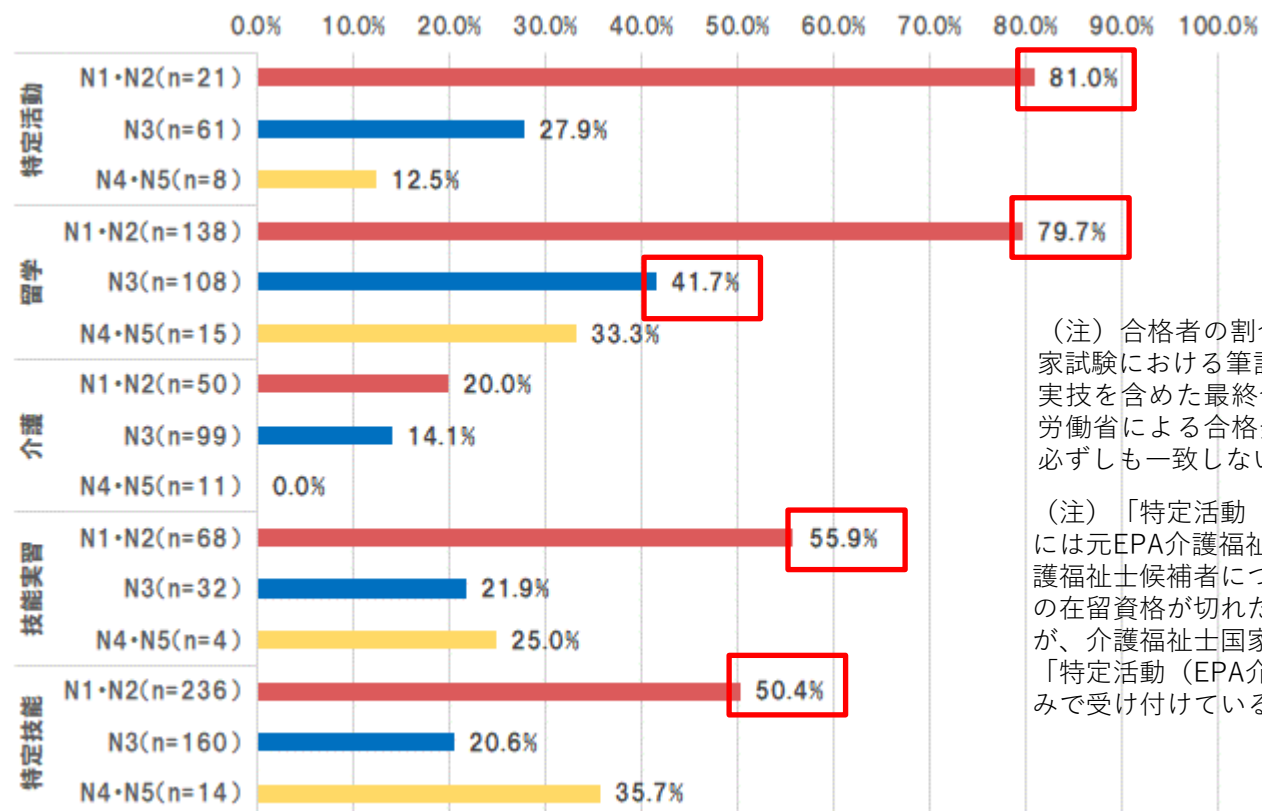
（注）第36回介護福祉士国家試験における筆記試験の合否。
実技を含めた最終合否ではないため、厚生労働省による合格発表時のプレス資料とは必ずしも一致しない。

2. 主な調査結果

N2以上での国家試験合格者の割合は、特定活動と留学は約8割、技能実習と特定技能は5割強。

- N2以上における国家試験合格者の割合は、特定活動（EPA介護福祉士候補者）で81.0%、留学（介護福祉士養成校の留学生：卒業見込）で79.7%、技能実習で55.9%、特定技能で50.4%
- 留学では、N3でも41.7%

図表14 在留資格別・日本語能力試験のレベル別 国家試験（筆記試験）合格者の割合（Q2-1）



（注）合格者の割合は第36回介護福祉士国家試験における筆記試験のもの。
実技を含めた最終合否ではないため、厚生労働省による合格発表時のプレス資料とは必ずしも一致しない。

（注）「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」には元EPA介護福祉士候補者も含む。元EPA介護福祉士候補者については、特定活動（EPA）の在留資格が切れた後に特定技能に切り替わるが、介護福祉士国家試験の受験申請時には全員「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」の枠組みで受け付けている。

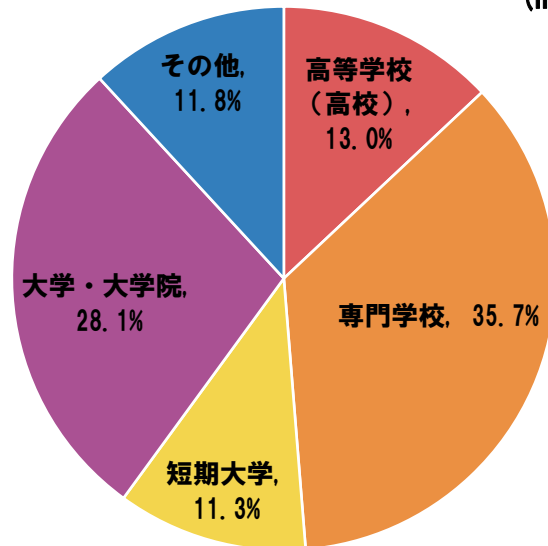
2. 主な調査結果

(7) 来日前の経験：母国での最終学歴（Q3）

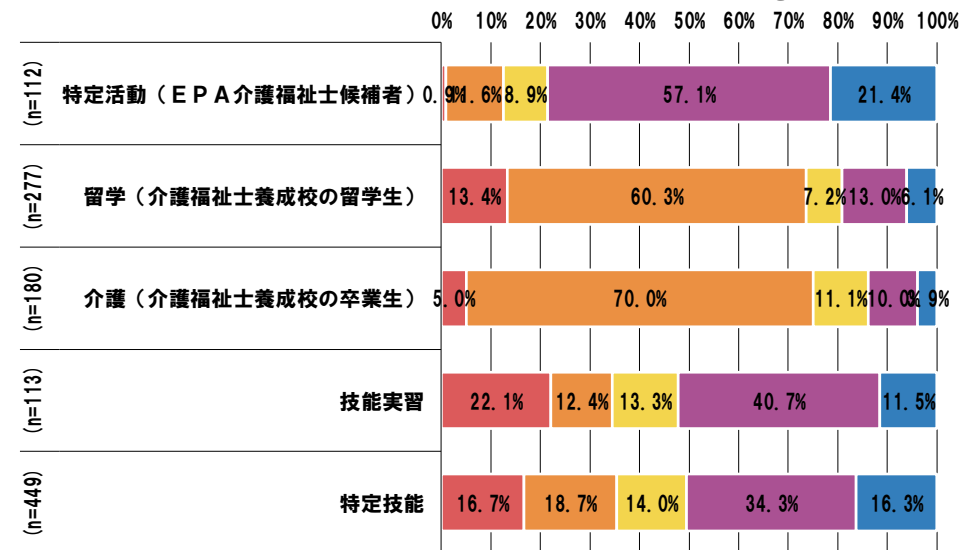
特定活動（EPA介護福祉士候補者）・技能実習・特定技能では「大学・大学院」の割合が高く、留学（介護福祉士養成校の留学生：卒業見込）・介護（介護福祉士養成校の卒業生）では「専門学校」の割合が高い。

- 「大学・大学院」の割合は、特定活動で57.1%、技能実習で40.7%、特定技能で34.3%
- 「専門学校」の割合は、留学で60.3%、介護で70.0%

図表15 最終学歴（n=1,131）（Q3）
(n=1131)



図表16 在留資格別 最終学歴（Q3）



■ 高等学校（高校） ■ 専門学校 ■ 短期大学 ■ 大学・大学院 ■ その他

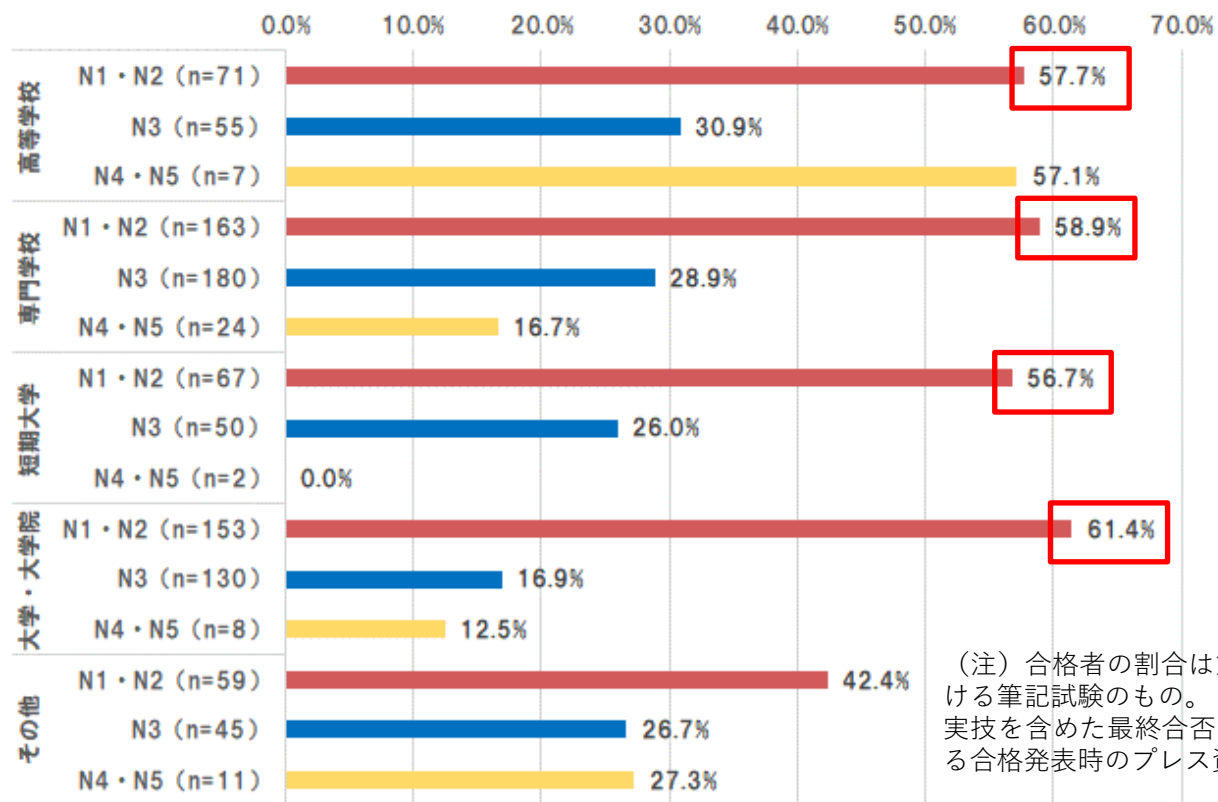
（注）「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」には元EPA介護福祉士候補者も含む。元EPA介護福祉士候補者については、特定活動（EPA）の在留資格が切れた後に特定技能に切り替わるが、介護福祉士国家試験の受験申請時には全員「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」の枠組みで受け付けている。

2. 主な調査結果

母国での最終学歴にかかわらず、N2以上の日本語能力をもつ人の合格率は高い。

- N2以上に占める合格者の割合は、「高等学校」で57.7%、「専門学校」で58.9%、「短期大学」で56.7%、「大学・大学院」で61.4%

図表17 最終学歴別・日本語能力試験のレベル別
国家試験（筆記試験）合格者の割合（Q3）



（注）合格者の割合は第36回介護福祉士国家試験における筆記試験のもの。
実技を含めた最終合否ではないため、厚生労働省による合格発表時のプレス資料とは必ずしも一致しない。

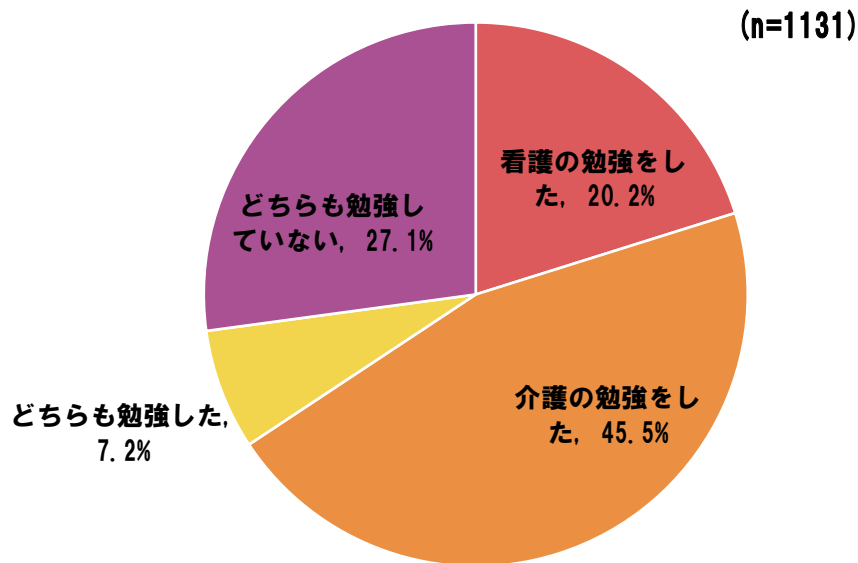
2. 主な調査結果

(8) 来日前の経験：母国での最終学歴における看護や介護の学習経験（Q4）

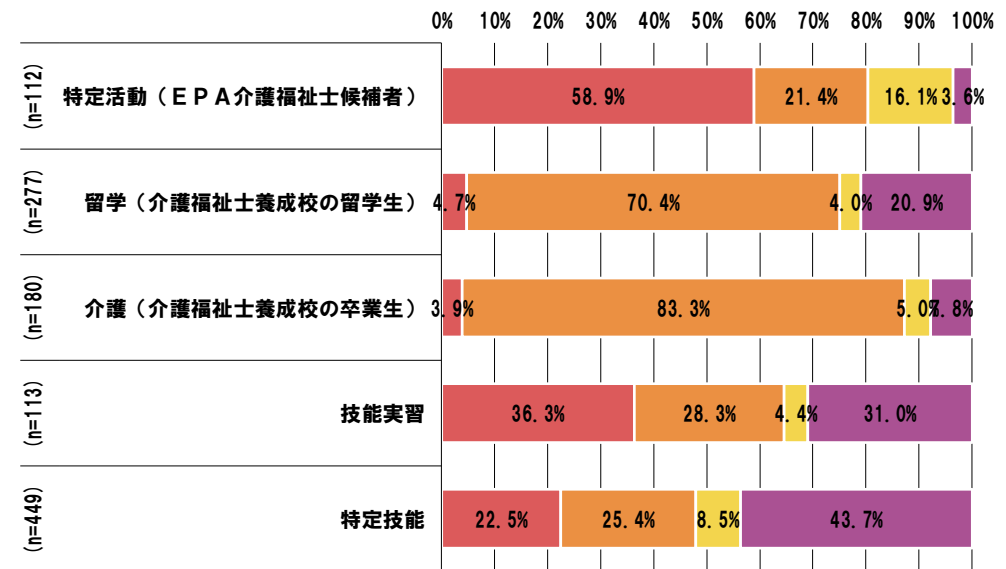
母国の最終学歴での看護や介護の学習経験を在留資格別にみると、特定活動（EPA介護福祉士候補者）では「看護の勉強をした」、留学（介護福祉士養成校の留学生：卒業見込）・介護（介護福祉士養成校の卒業生）では「介護の勉強をした」の割合が高い。

- 特定活動における「看護の勉強をした」の割合が58.9%、留学における「介護の勉強をした」の割合が70.4%

図表18 看護や介護の学習経験
(n=1,131) (Q4)



図表19 在留資格別 看護や介護の学習経験（Q4）



■ 看護の勉強をした ■ 介護の勉強をした ■ どちらも勉強した ■ どちらも勉強していない

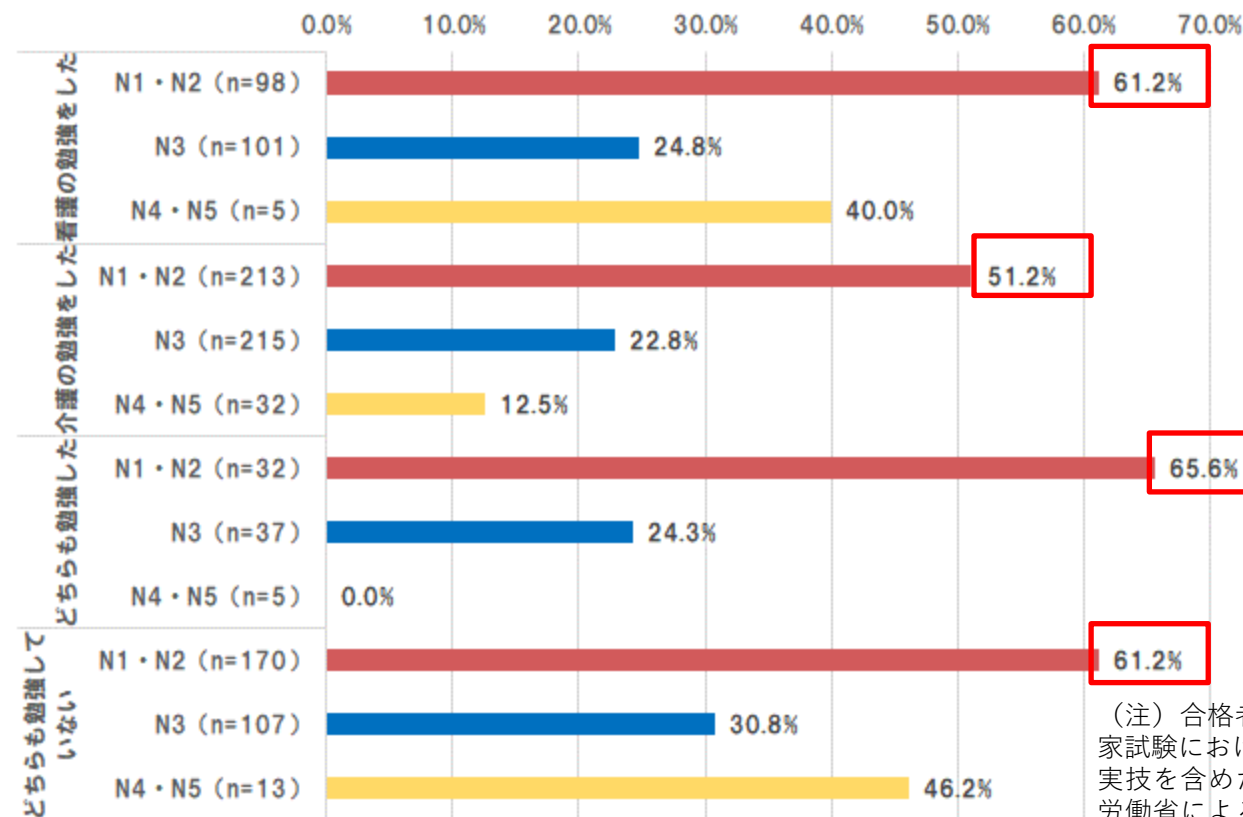
（注）「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」には元EPA介護福祉士候補者も含む。元EPA介護福祉士候補者については、特定活動（EPA）の在留資格が切れた後に特定技能に切り替わるが、介護福祉士国家試験の受験申請時には全員「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」の枠組みで受け付けている。

2. 主な調査結果

母国の最終学歴での看護や介護の学習経験の有無にかかわらず、N2以上の日本語能力をもつ人の合格率は高い。

- N2以上に占める合格者の割合は、「看護の勉強をした」で61.2%、「介護の勉強をした」で51.2%、「どちらも勉強した」で65.6%、「どちらも勉強していない」で61.2%

図表20 看護や介護の学習経験別・日本語能力試験のレベル別 国家試験（筆記試験）合格者の割合（Q



（注）合格者の割合は第36回介護福祉士国家試験における筆記試験のもの。実技を含めた最終合否ではないため、厚生労働省による合格発表時のプレス資料とは必ずしも一致しない。

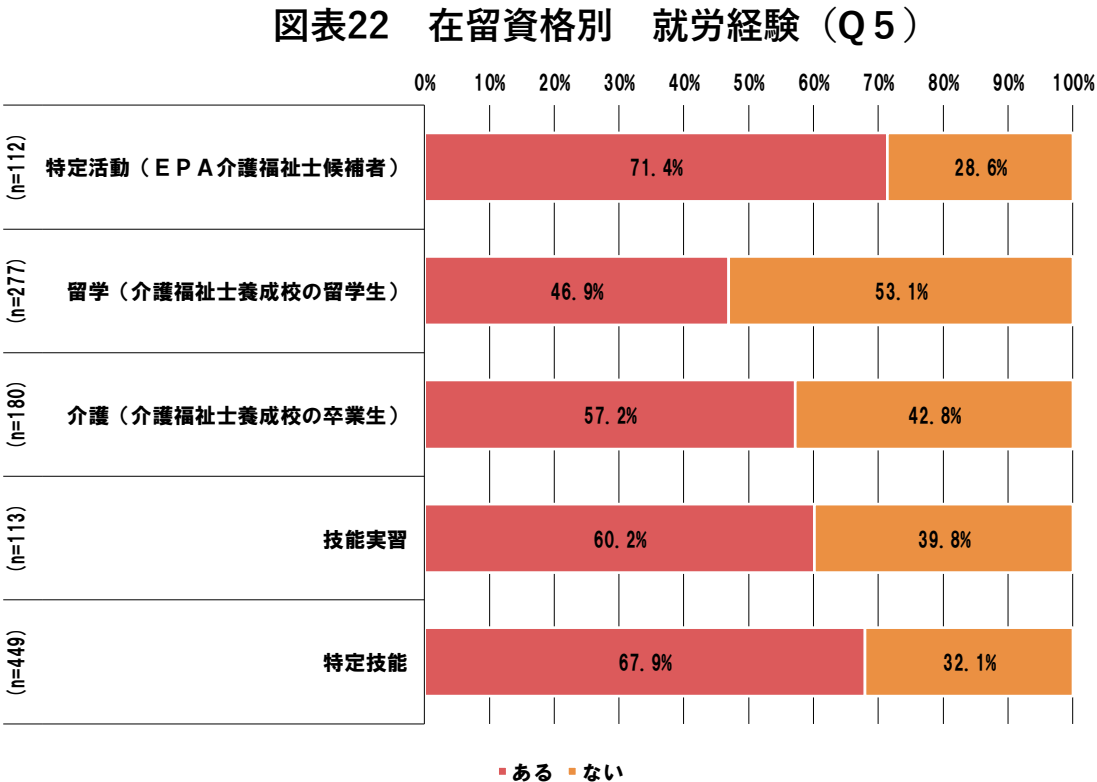
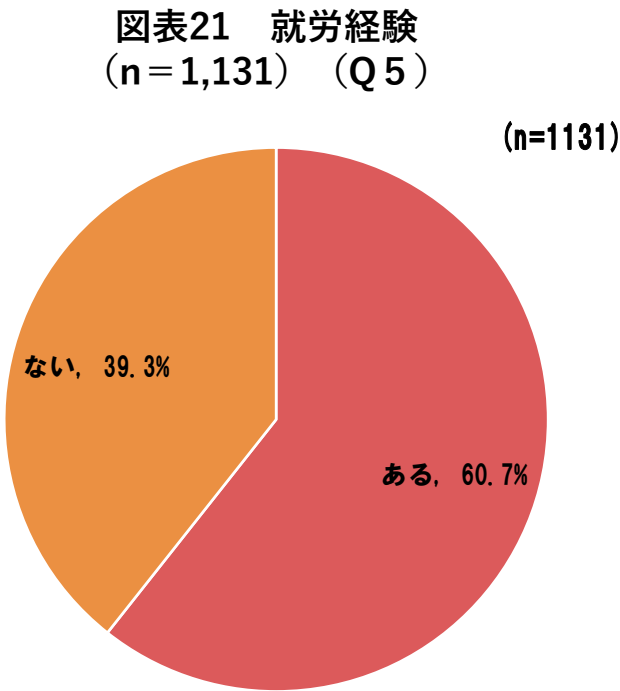


2. 主な調査結果

(9) 来日前の経験：母国での就労経験（Q5）

母国での就労経験を在留資格別にみると、留学を除き「就労経験あり」が半数を超えている。

➤ 「就労経験あり」の割合は、特定活動で71.4%、留学で46.9%、介護で57.2%、技能実習で60.2%、特定技能で67.9%

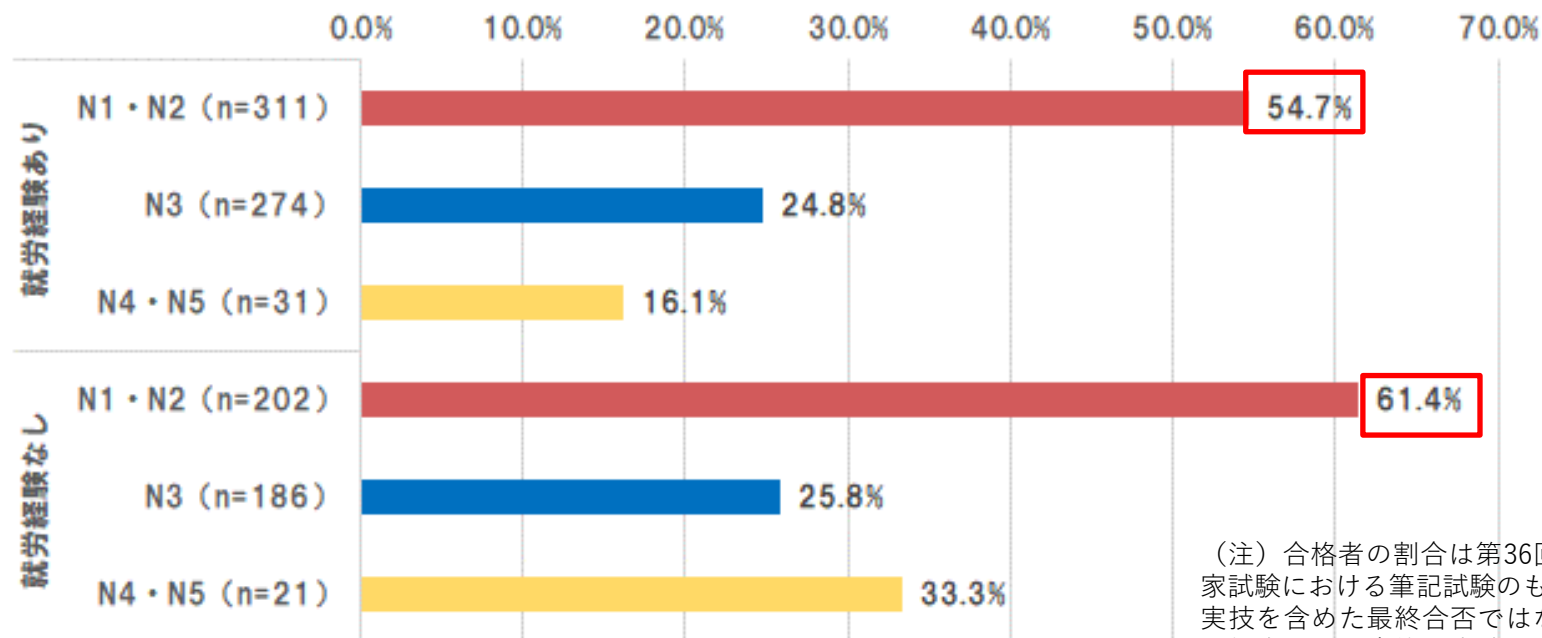


2. 主な調査結果

母国の就労経験の有無にかかわらず、N2以上の日本語能力をもつ人の合格率は高い。

- N2以上に占める合格者の割合は、「就労経験あり」で54.7%、「就労経験なし」で61.4%

図表23 就労経験別・日本語能力試験のレベル別 国家試験（筆記試験）合格者の割合（Q5）



（注）合格者の割合は第36回介護福祉士国家試験における筆記試験のもの。
実技を含めた最終合否ではないため、厚生労働省による合格発表時のプレス資料とは必ずしも一致しない。

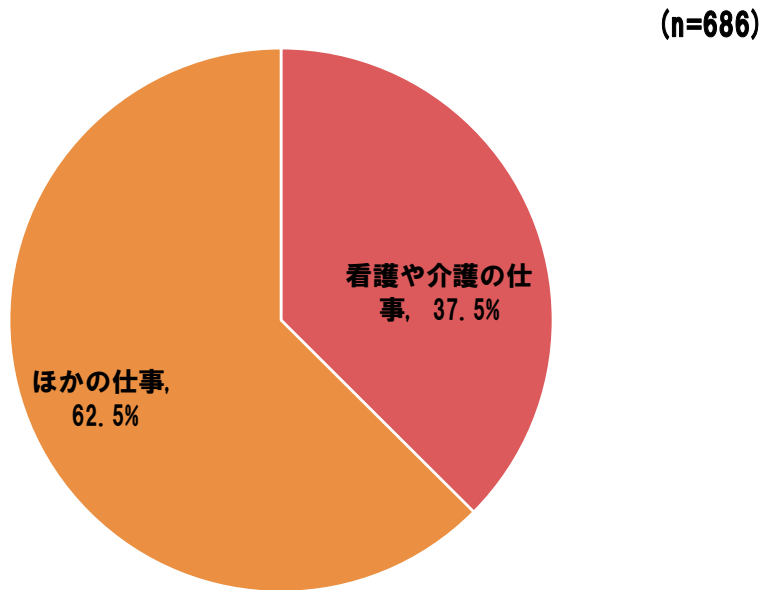
2. 主な調査結果

(10) 来日前の経験：母国での仕事の内容（Q5－1）

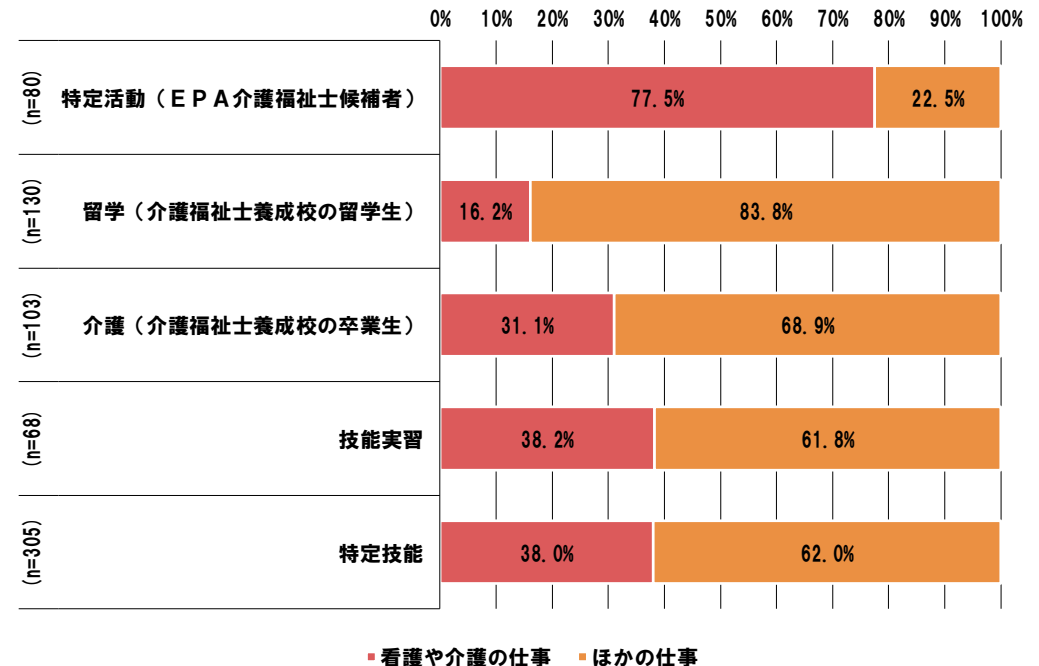
母国での就労経験の内容は、看護や介護以外の仕事の割合が高い。

- 看護や介護の仕事が37.5%、他の仕事が62.5%
- 在留資格別にみると、特定活動（EPA介護福祉士候補者）では「看護や介護の仕事」が77.5%

図表24 仕事の内容（n＝686）（Q5－1）



図表25 在留資格別 仕事の内容（Q5－1）



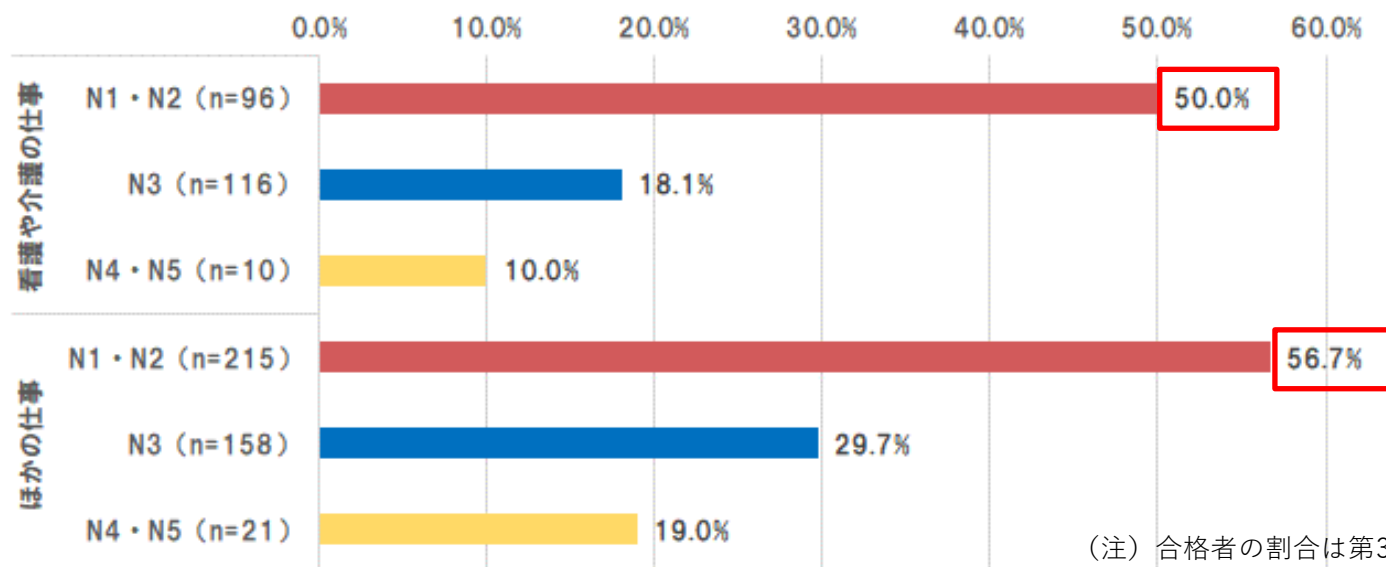
（注）「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」には元EPA介護福祉士候補者も含む。元EPA介護福祉士候補者については、特定活動（EPA）の在留資格が切れた後に特定技能に切り替わるが、介護福祉士国家試験の受験申請時には全員「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」の枠組みで受け付けている。

2. 主な調査結果

母国での仕事内容にかかわらず、N2以上の日本語能力をもつ人の合格率は高い。

- N2以上に占める合格者の割合は、「看護や介護の仕事」で50.0%、「ほかの仕事」で56.7%

図表26 仕事の内容別・日本語能力試験のレベル別 国家試験（筆記試験）の合否（Q5）



（注）合格者の割合は第36回介護福祉士国家試験における筆記試験のもの。
実技を含めた最終合否ではないため、厚生労働省による合格発表時のプレス資料とは必ずしも一致しない。

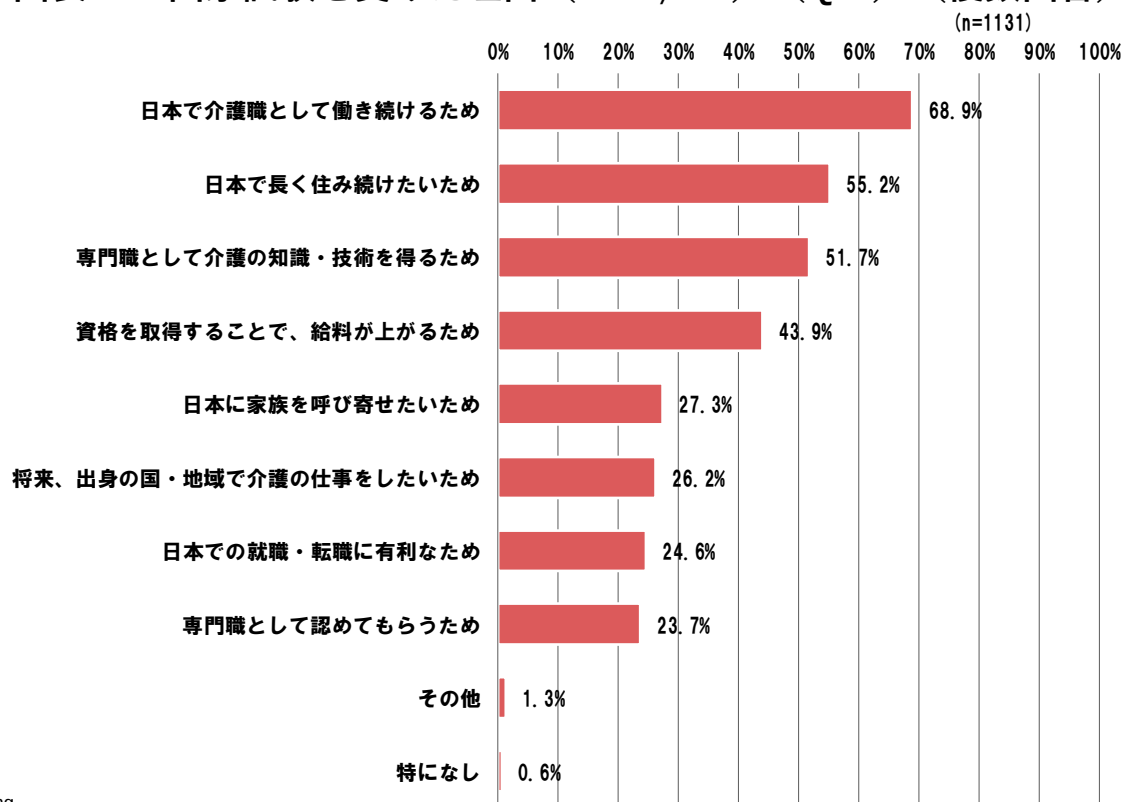
2. 主な調査結果

(11) 介護福祉士国家試験を受けた理由 (Q8)

日本で長く働き続けるため、住み続けるために国家試験を受けた人が多い。

- 「日本で介護職として働き続けるため」の割合が最も高く68.9%だった。次いで、「日本で長く住み続けたいため (55.2%)」、「専門職として介護の知識・技術を得るため (51.7%)」だった。

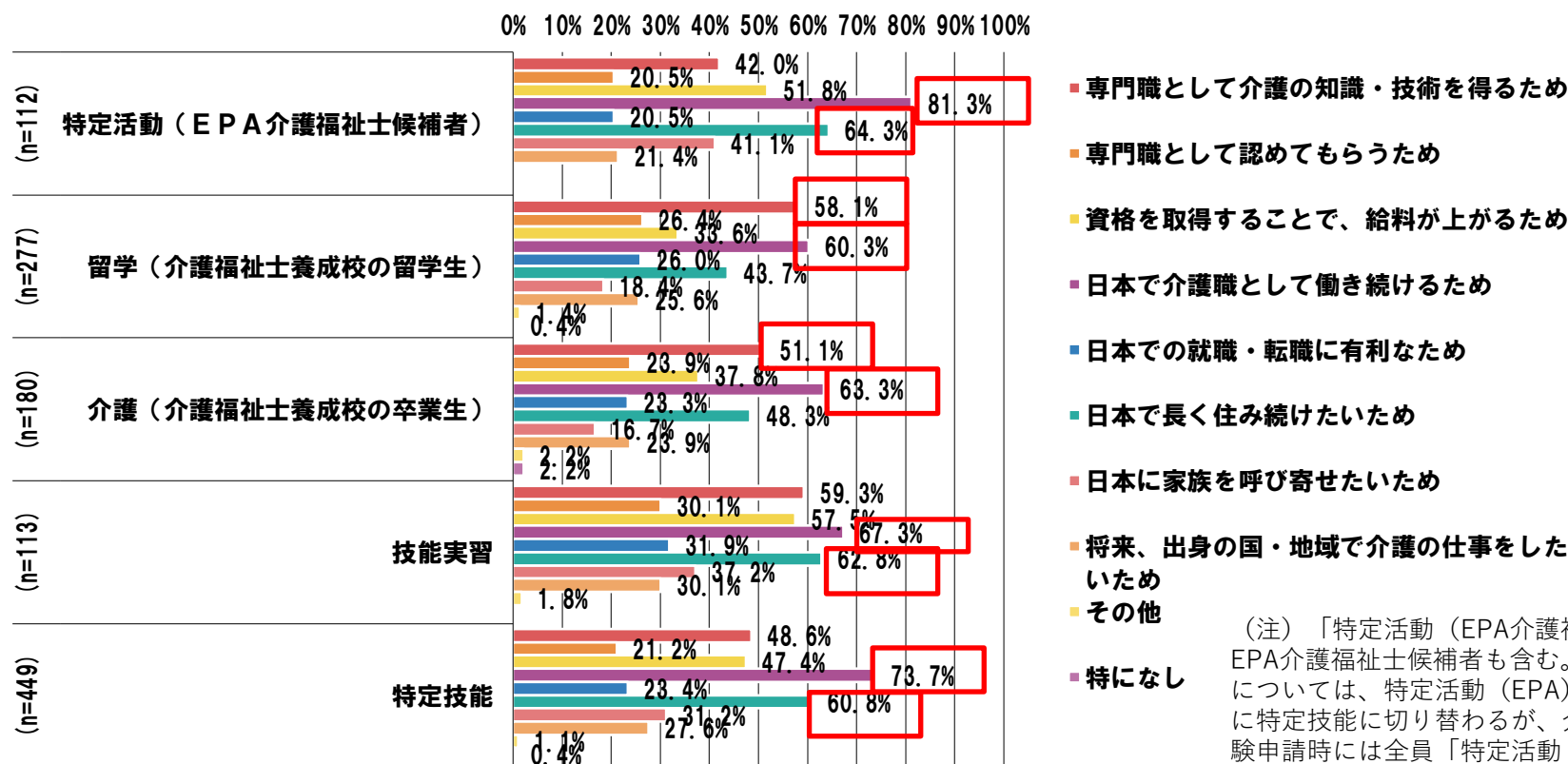
図表27 国家試験を受けた理由 (n=1,131) (Q8) (複数回答)



2. 主な調査結果

どの在留資格でも「日本で介護職として働き続けるため」がトップ。
 特定活動・技能実習・特定技能では「日本で長く住み続けたいため」、留学・介護では「専門職として介護の知識・知能を得るため」が続く。

図表28 在留資格別 国家試験を受けた理由（Q8）（複数回答）



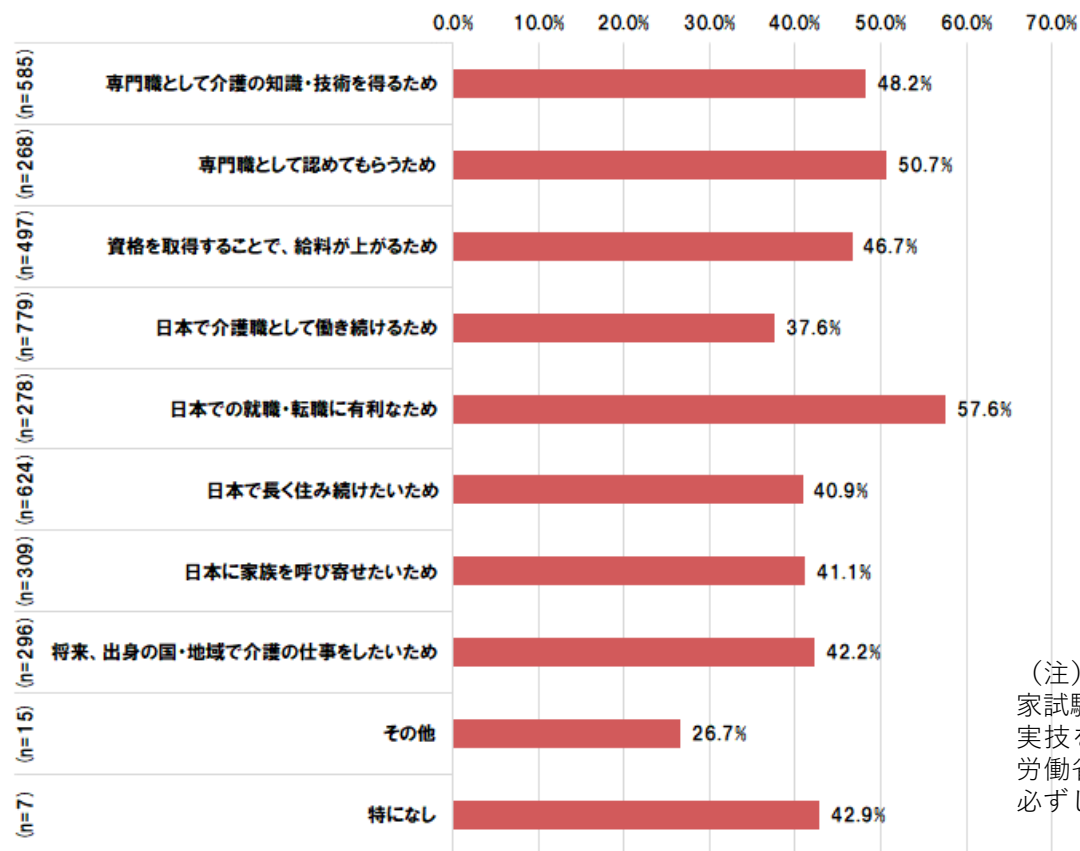
（注）「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」には元EPA介護福祉士候補者も含む。元EPA介護福祉士候補者については、特定活動（EPA）の在留資格が切れた後に特定技能に切り替わるが、介護福祉士国家試験の受験申請時には全員「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」の枠組みで受け付けている。

2. 主な調査結果

日本での就職・転職に有利なため、国家試験を受けた人の合格率が比較的高い。

- 介護福祉士国家試験を受けた理由に「日本での就職・転職に有利なため」を挙げた人（278人）の合格率が57.8%。

図表29 国家試験を受けた理由別 国家試験（筆記試験）合格者の割合（n=1,131）（Q8）（複数回答）



（注）合格者の割合は第36回介護福祉士国家試験における筆記試験のもの。実技を含めた最終合否ではないため、厚生労働省による合格発表時のプレス資料とは必ずしも一致しない。

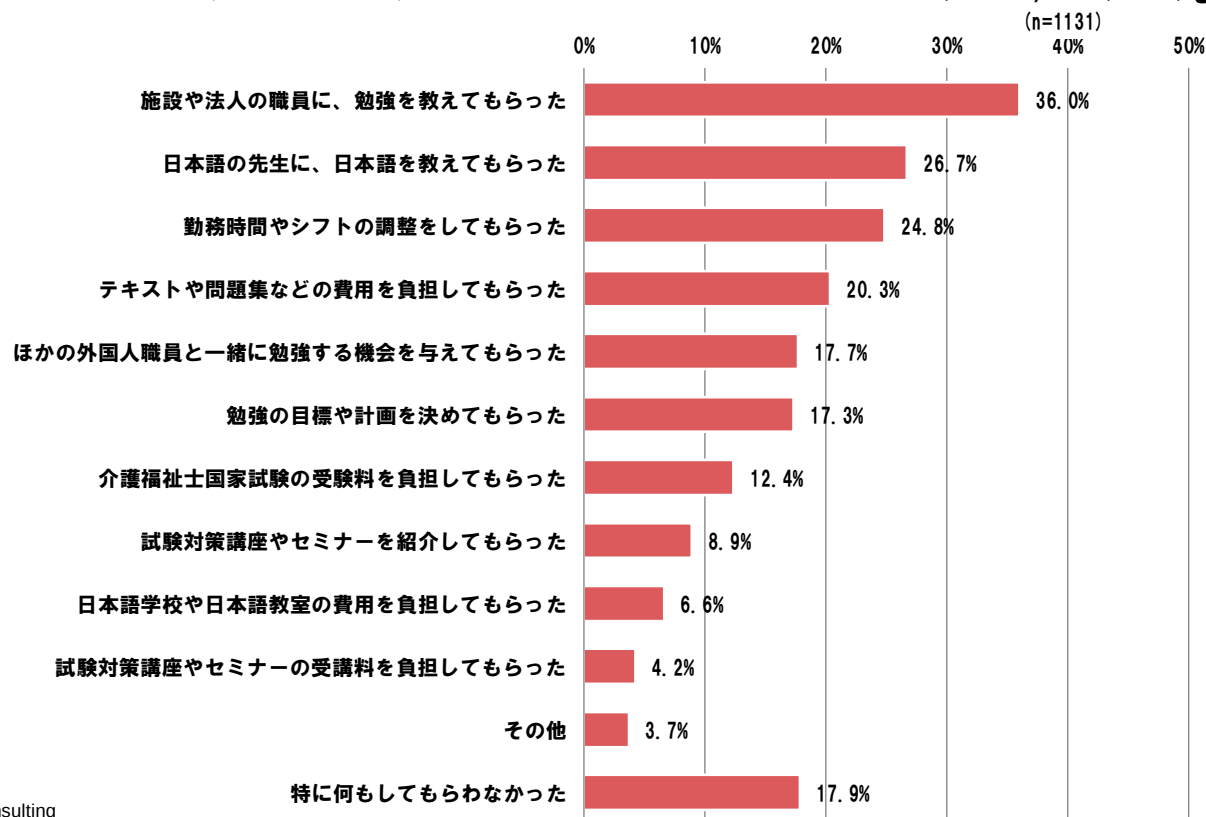
2. 主な調査結果

(12) 職場やアルバイト先、監理団体、登録支援機関から受けた支援 (Q11)

支援内容として、施設や法人の職員が勉強を教える例が多い。

- 「施設や法人の職員に、勉強を教えてもらった」の割合が最も高く36.0%次いで、「日本語の先生に、日本語を教えてもらった」が26.7%、「勤務時間やシフトの調整をしてもらった」が24.8%。

図表30 職場やアルバイト先、監理団体、登録支援機関から受けた支援 (n=1,131) (Q11) (複数回答)

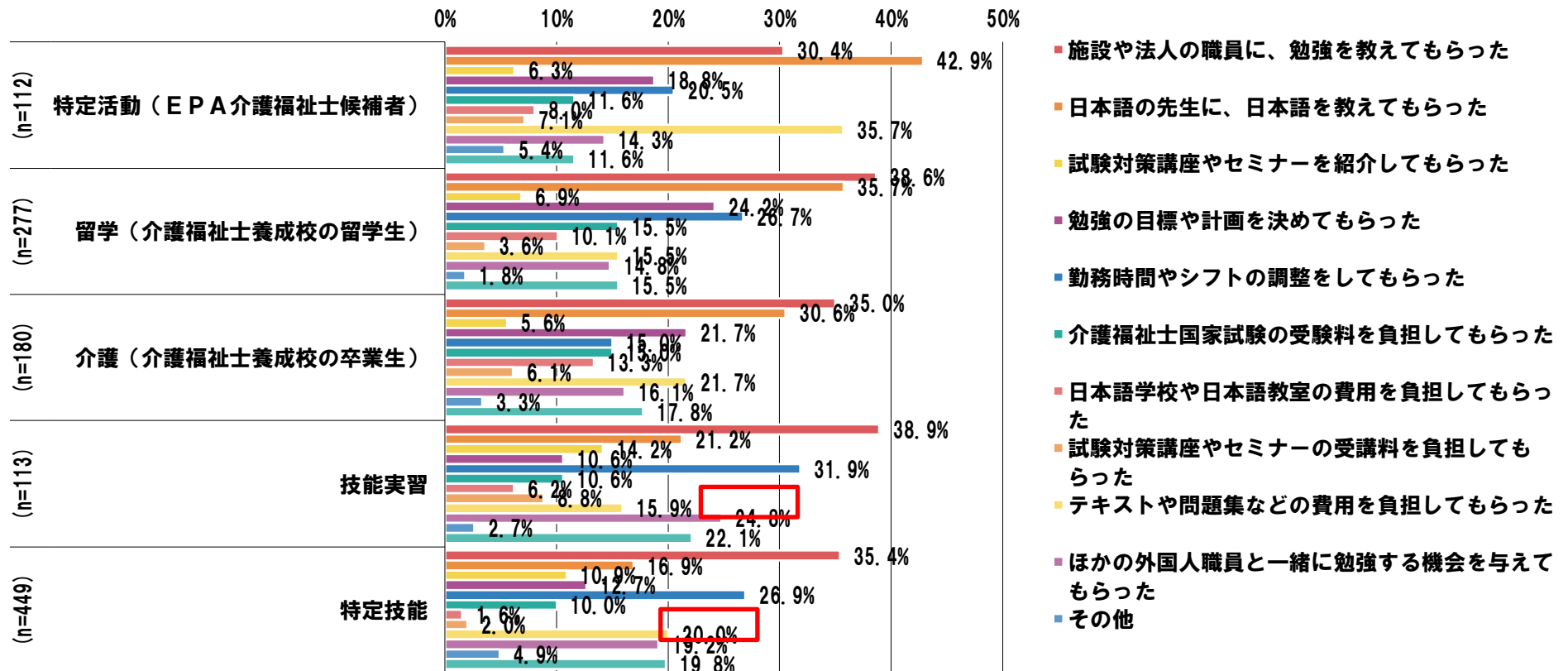


2. 主な調査結果

技能実習生、特定技能外国人への日本語学習支援の割合が低い。

- 在留資格別に「日本語の先生に、日本語を教えてもらった」の割合をみると、技能実習で21.2%、特定技能で16.9%。

図表31 在留資格別 職場やアルバイト先、監理団体、登録支援機関から受けた支援（Q11）（複数回答）



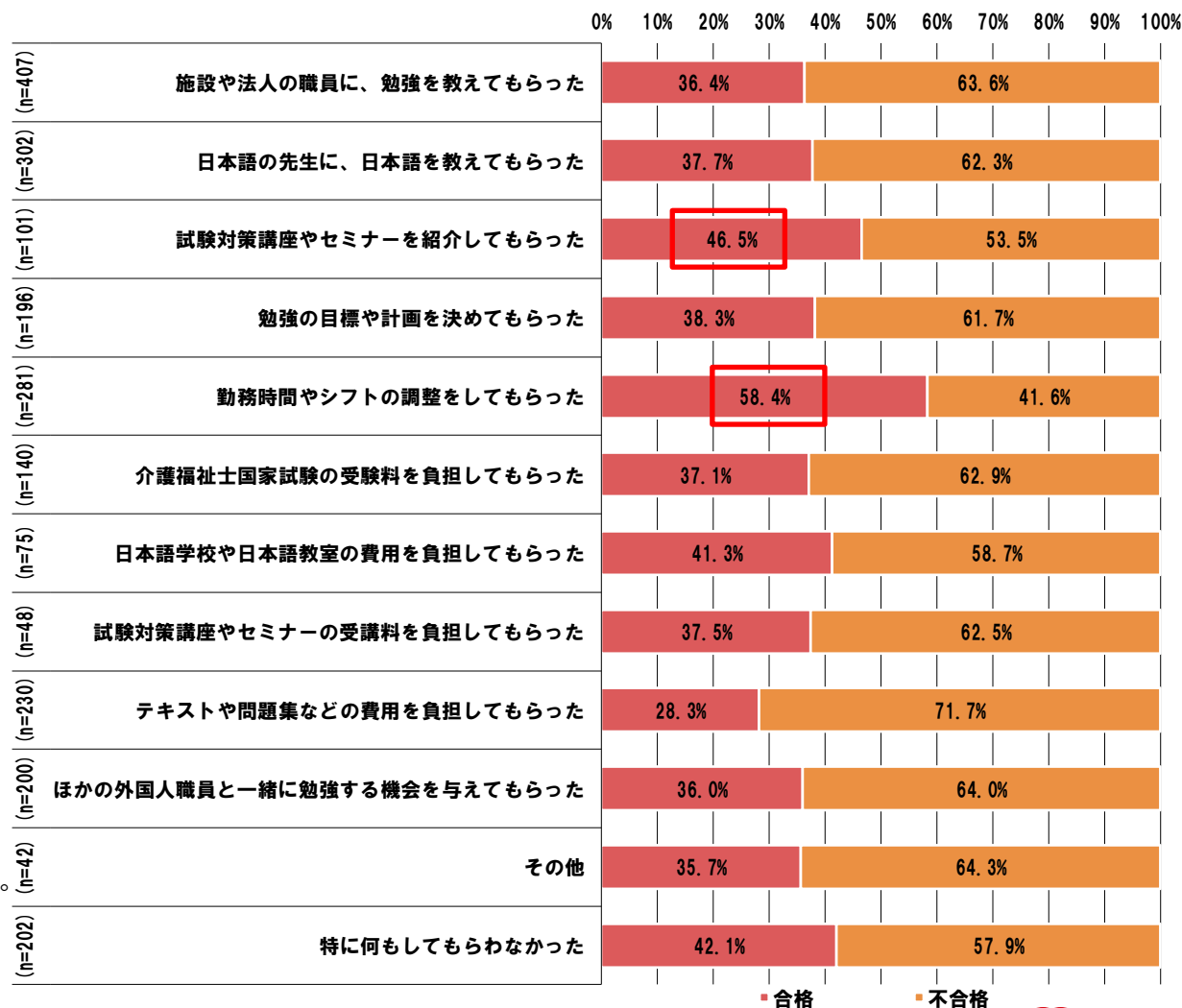
（注）「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」には元EPA介護福祉士候補者も含む。元EPA介護福祉士候補者については、特定活動（EPA）の在留資格が切れた後に特定技能に切り替わるが、介護福祉士国家試験の受験申請時には全員「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」の枠組みで受け付けている。

2. 主な調査結果

支援策としては「勤務時間やシフトの調整」が有効。

- 「勤務時間やシフトの調整をしてもらった」人（281人）のうち、58.4%が合格。「試験対策講座やセミナーを紹介してもらった」人（101人）のうち、46.5%が合格。

図表32 職場やアルバイト先、監理団体、登録支援機関から受けた支援別
国家試験（筆記試験）の合否（n=1,131）（Q11）（複数回答）



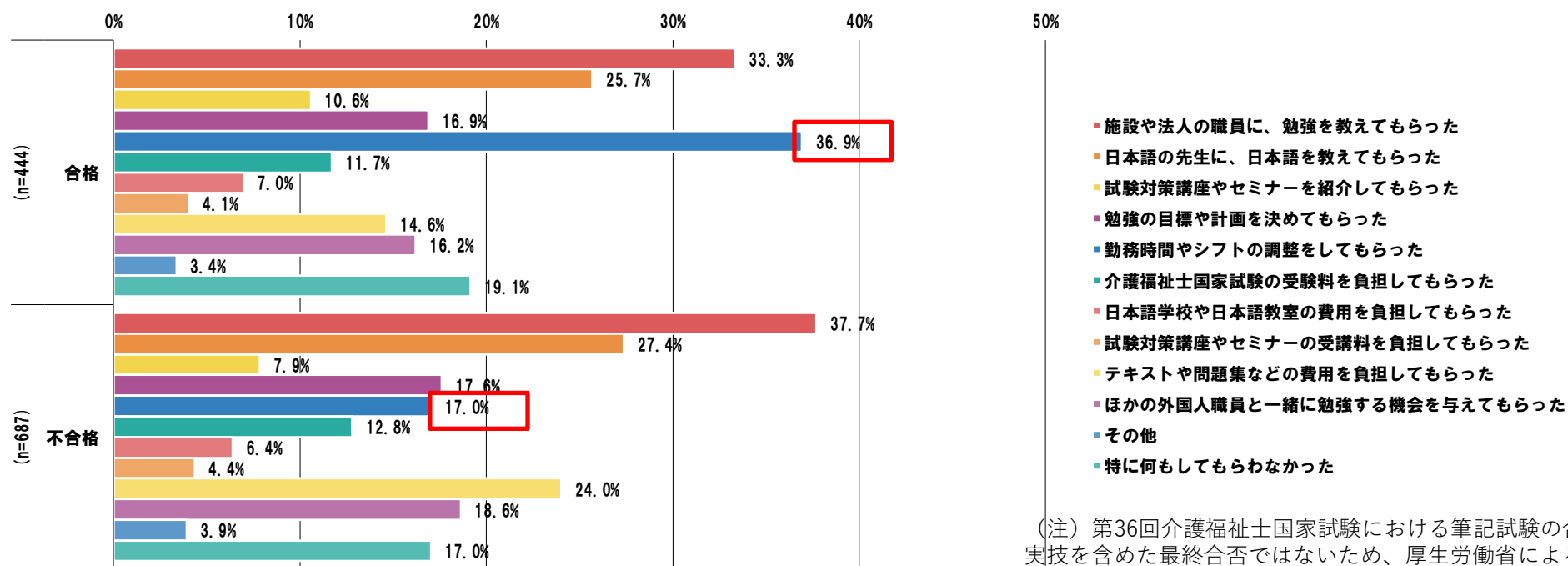
（注）第36回介護福祉士国家試験における筆記試験の合否。実技を含めた最終合否ではないため、厚生労働省による合格発表時のプレス資料とは必ずしも一致しない。

2. 主な調査結果

支援策としては「勤務時間やシフトの調整」が有効。

- 国家試験の合否別に「勤務時間やシフトの調整をしてもらった」の割合をみると、「合格」では36.9%、「不合格」では17.0%。

図表33 国家試験（筆記試験）の合否別 職場やアルバイト先、監理団体、登録支援機関から受けた支援
(n=1,131) (Q11) (複数回答)



(注) 第36回介護福祉士国家試験における筆記試験の合否。実技を含めた最終合否ではないため、厚生労働省による合格発表時のプレス資料とは必ずしも一致しない。

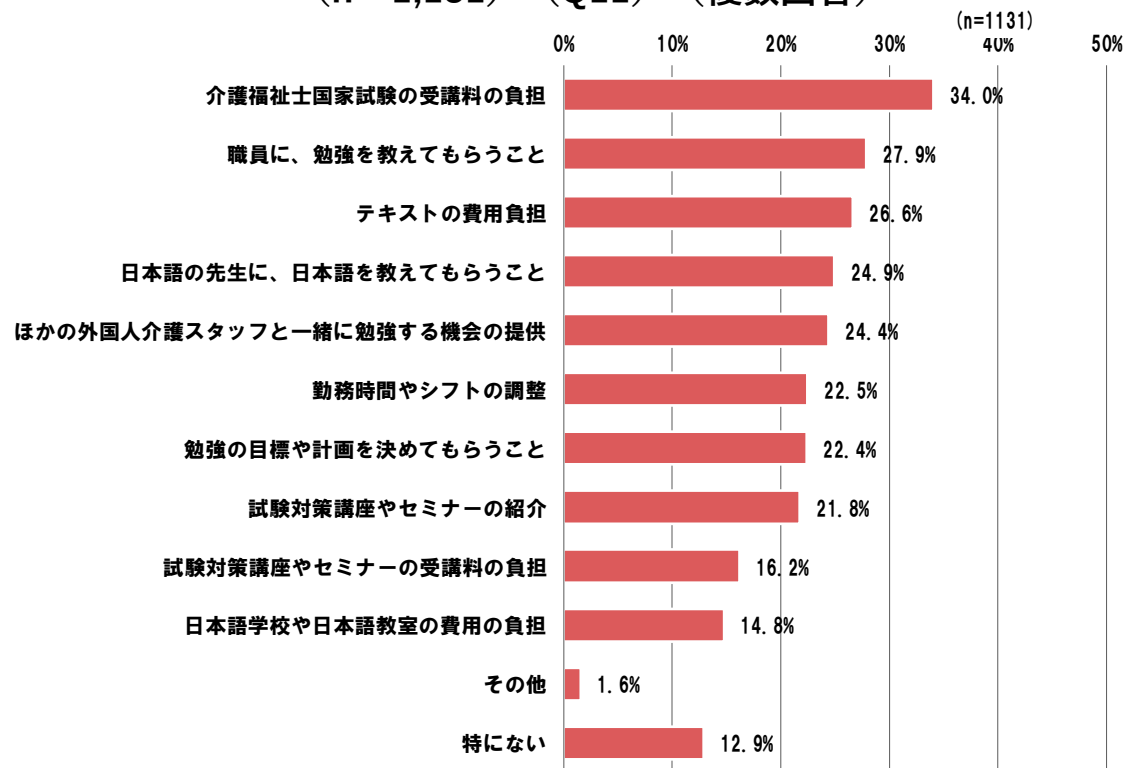
2. 主な調査結果

(14) 介護福祉士国家資格を取得するため、支援してほしいこと、これから支援してほしいこと（Q12）

外国人材本人が望む支援策は費用負担の軽減。

- 「介護福祉士国家試験の受講料の負担」が34.0%。次いで「職員に、勉強を教えてもらうこと」が27.9%、「テキストの費用負担」が26.6%。

図表34 国家資格を取得するため、支援してほしいこと、これから支援してほしいこと
(n=1,131) (Q11) (複数回答)

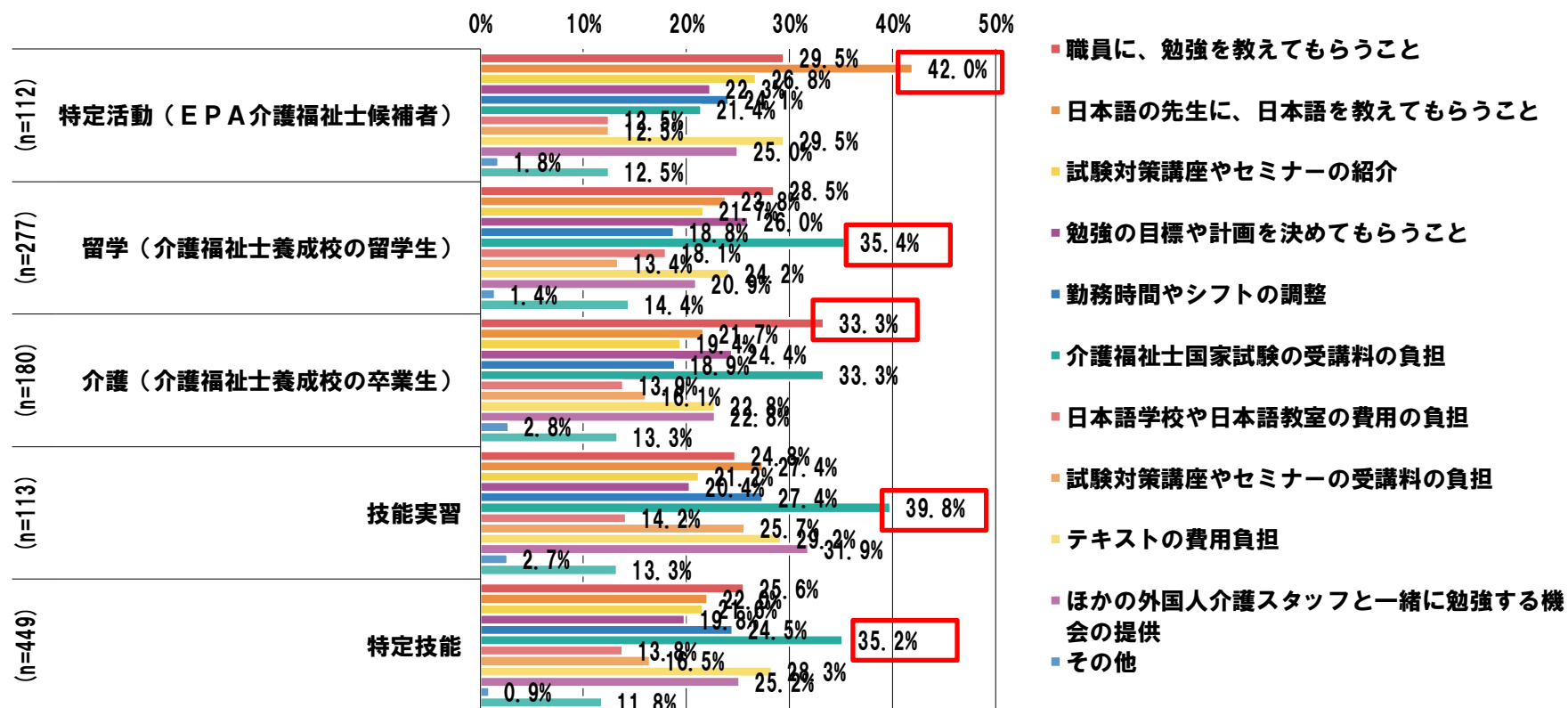


2. 主な調査結果

介護（介護福祉士養成校の卒業生）への学習支援が求められている。

- 「介護」における「職員に、勉強を覚えてもらうこと」の割合が33.3%

図表35 在留資格別 国家資格を取得するため、支援してほしいこと、これから支援してほしいこと（Q11）（複数回答）



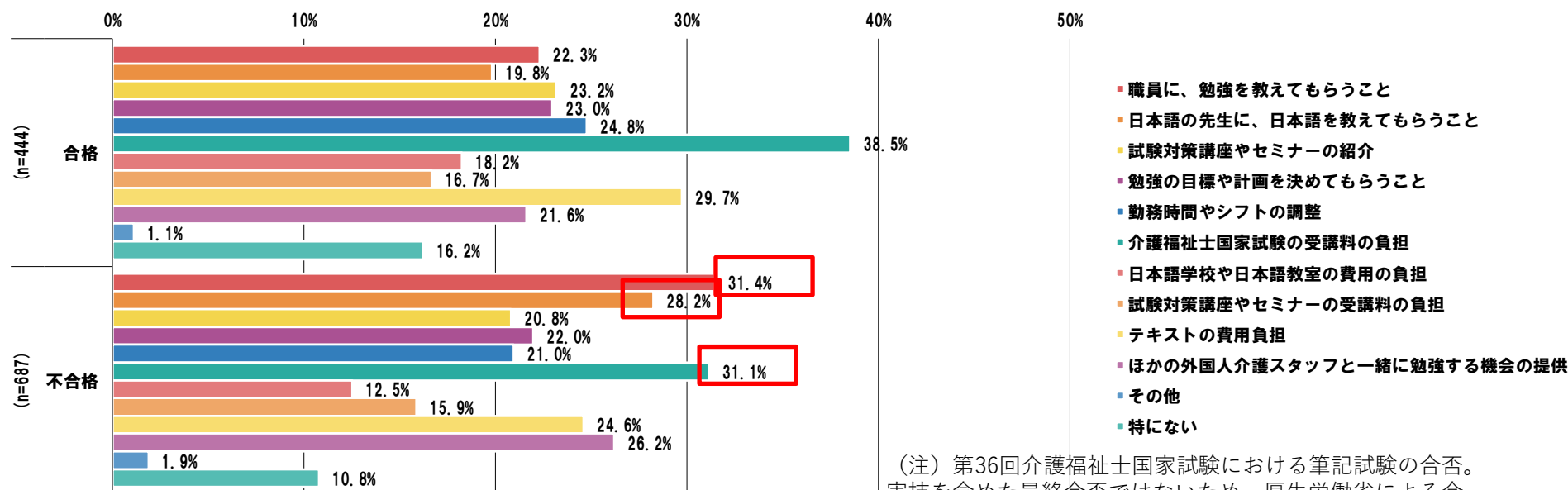
（注）「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」には元EPA介護福祉士候補者も含む。元EPA介護福祉士候補者については、特定活動（EPA）の在留資格が切れた後に特定技能に切り替わるが、介護福祉士国家試験の受験申請時には全員「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」の枠組みで受け付けている。

2. 主な調査結果

不合格者への学習支援が求められている。

- 国家試験の合否別にみると、不合格者では「職員に、勉強を覚えてもらうこと」が31.4%、「介護福祉士国家試験の受講料の負担」が31.1%、「日本語の先生に、日本語を覚えてもらうこと」が28.2%

図表36 国家資格を取得するため、支援してほしいこと、これから支援してほしいこと
(n=1,131) (Q11) (複数回答)



(注) 第36回介護福祉士国家試験における筆記試験の合否。実技を含めた最終合否ではないため、厚生労働省による合格発表時のプレス資料とは必ずしも一致しない。

2. 主な調査結果

(15) 科目群別にみた平均正答率

介護福祉士国家試験の試験科目は、11科目群で構成されており、出題数は125問となっている。

図表37 介護福祉士国家試験の試験科目

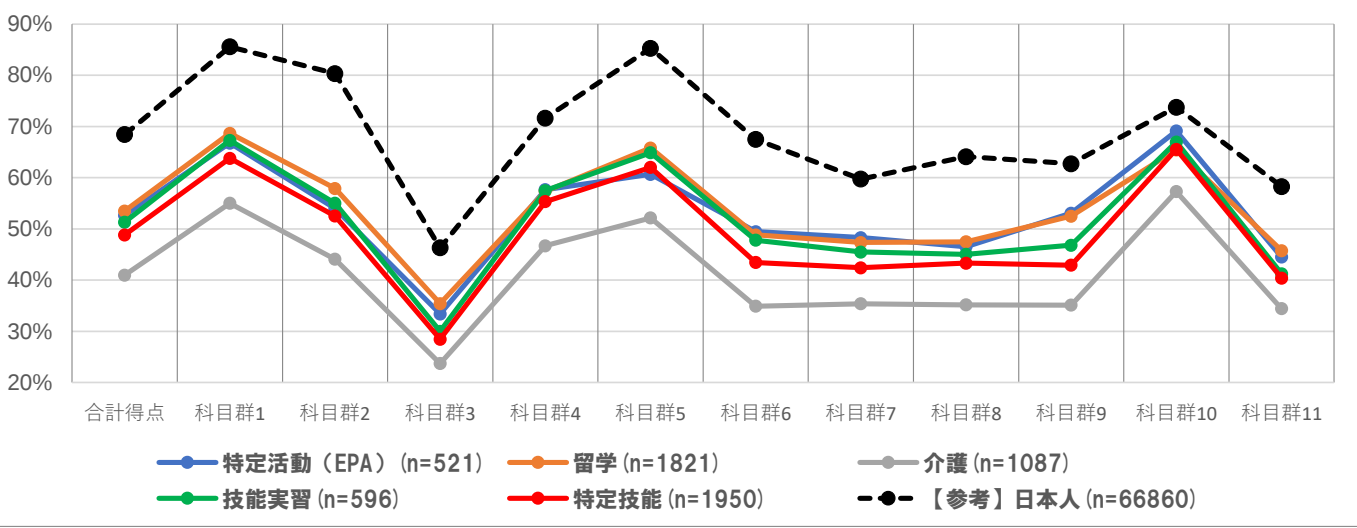
科目群	科目名	出題数		領域
1	人間の尊厳と自立	12	2	人間と社会
	介護の基本		10	介護
2	人間関係とコミュニケーション	10	4	人間と社会
	コミュニケーション技術		6	介護
3	社会の理解	12		人間と社会
4	生活支援技術	26		介護
5	介護過程	8		介護
6	こころとからだのしくみ	12		こころとからだのしくみ
7	発達と老化の理解	8		こころとからだのしくみ
8	認知症の理解	10		こころとからだのしくみ
9	障害の理解	10		こころとからだのしくみ
10	医療的ケア	5		医療的ケア
11	総合問題	12		総合問題

2. 主な調査結果

(15) 科目群別にみた平均正答率

在学中に合格できなかった介護福祉士養成校の卒業生への支援が必要

- 外国人受験者全員について、在留資格別に各科目群の平均正答率を比較すると、「留学（介護福祉士養成校の留学生：卒業見込）は、他の在留資格に比べて平均正答率が高い傾向がみられる。
- 一方、「介護（介護福祉士養成校の卒業生）」は他の在留資格に比べて平均正答率が低い傾向がみられ、養成校の卒業生と在校生とで受験成績に乖離がみられる。



(注1) 「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」には元EPA介護福祉士候補者も含む。元EPA介護福祉士候補者については、特定活動（EPA）の在留資格が切れた後に特定技能に切り替わるが、介護福祉士国家試験の受験申請時には全員「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」の枠組みで受け付けている。

(注2) 科目群番号と試験科目の対応関係については、前頁を参照。

	合計得点	科目群1	科目群2	科目群3	科目群4	科目群5	科目群6	科目群7	科目群8	科目群9	科目群10	科目群11
特定活動(EPA)(n=521)	52.7%	66.8%	54.0%	33.4%	57.7%	60.7%	49.5%	48.3%	46.5%	53.1%	69.1%	44.5%
留学(n=1821)	53.5%	68.7%	57.9%	35.4%	57.4%	65.8%	48.8%	47.4%	47.5%	52.5%	65.4%	45.8%
介護(n=1087)	41.0%	55.0%	44.1%	23.7%	46.7%	52.2%	34.9%	35.4%	35.2%	35.1%	57.3%	34.5%
技能実習(n=596)	51.3%	67.3%	55.0%	30.0%	57.5%	64.9%	47.8%	45.5%	45.1%	46.8%	67.0%	41.3%
特定技能(n=1950)	48.8%	63.8%	52.5%	28.5%	55.4%	62.0%	43.5%	42.4%	43.3%	42.9%	65.6%	40.4%
【参考】日本人(n=66860)	68.4%	85.6%	80.3%	46.3%	71.6%	85.3%	67.5%	59.8%	64.1%	62.7%	73.8%	58.3%

外国人介護人材の介護福祉士国家試験受験に関するアンケート

アンケート実施要項

厚生労働省 令和6年度老人保健健康増進等事業 外国人介護人材の介護福祉士
国家資格取得の支援強化に関する調査研究事業

外国人介護人材の介護福祉士国家試験受験に関するアンケート

◆実施期間

2025年1月14日(火)23時59分まで

このアンケートは、介護福祉士国家試験を受験した外国人の皆様の状況を知るために、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社が行うものです。本アンケートの結果は、今後より多くの方に介護福祉士として活躍してもらう方法を検討するために使います。公益財団法人社会福祉振興・試験センターが持っている第36回介護福祉士国家試験の結果の情報をあわせて分析する予定です。皆様のご回答が、今後の重要なデータとなります。ご協力をお願いします。

◆ご回答にあたってのお願い・注意事項

このアンケートは、2024年1月に行われた第36回介護福祉士国家試験を受験した時、EPA介護福祉士候補者、介護福祉士養成校の留学生・卒業生、技能実習生、特定技能外国人であった方が対象です。

このアンケートは、介護福祉士国家試験の合否には全く関係ありません。

このアンケートの結果と第36回介護福祉士国家試験の結果の情報を分析することで、今後の参考にします。問題ない方は、質問にお答えください。
答えにくい質問には、答えなくても大丈夫です。

◆ご記入いただいた個人情報の取扱いについて

ご回答いただいた情報は、当社の「個人情報保護方針」および「個人情報の取り扱いについて」に従って適切に取り扱います。

このアンケートで得られた情報は調査研究の目的のみで使用し、ご本人の同意なく第三者に開示・提供することはありません。また、統計的に処理した上で、このアンケートの結果や第36回介護福祉士国家試験の結果の情報を使用します。
お預かりしている情報の開示、削除等のお申し出、その他のお問い合わせにつきましては、下記の＜アンケートに関するお問い合わせ先＞までご連絡ください。

推奨環境について

アンケートにお答えいただくには下記の環境が必要です。

OS / ブラウザ

・ Microsoft Windows 10 / 11
Microsoft Edge
Firefox

・ iOS 15 / 16 / 17
Safari

その他の設定、プラグインについて

- ・ JavaScriptを有効にしてください。
- ・ Cookieを有効（受け入れる）にしてください。

お問い合わせ窓口

◇ <アンケートに関するお問い合わせ先>

三菱UFJリサーチ & コンサルティング アンケート調査事務局

お問い合わせ先：

TEL：03-5459-4789（平日、9:00-17:00、年末年始除く）

※日本語のみ

◇ <アンケートのシステムに関するお問い合わせ先>

クロス・マーケティング アンケート事務局

お問い合わせ先：

[こちら](#)の入力フォームからお問い合わせください。



同意（どうい）して参加（さんか）

「同意して参加」ボタンを押すと次のページよりアンケートが開始します。

1.あなたのプロフィールについて^{こた}教えてください

<あなたが^{だい}第36回^{かい}介護福祉士^{かい}国家試験^ごを受^{ねん}験^{がつ}した時^{こた}(2024年1月)のことを教えてください>

Q1

^{ねん}2024年^{がつ}1月に^{こっかしけん}国家試験^{じゅけん}を受^{とき}験^{ざいりゅうしかく}した時^{なん}の在留資格は何でしたか。

- 1 ☐ ^{とくていかつどう} 特定活動(EPA^{かい}介護福祉士^し候補者)
- 2 ☐ ^{りゅうがくかい}留 学(介護福祉士養成校^しの留学生)
- 3 ☐ ^{かいご}介護(介護福祉士養成校^しの卒業生)
- 4 ☐ ^{ぎのうじっしゅう}技能実習
- 5 ☐ ^{とくていぎのう} 特定技能

次へ

0 50 100(%)

Q1_1

2024年1月に国家試験を受験した時、Q1で答えた在留資格は何年目でしたか。

とくていかつどう かいごふくししこうほしゃ
特定活動(EPA介護福祉士候補者)

- 1 ☐ 1年目
- 2 ☐ 2年目
- 3 ☐ 3年目
- 4 ☐ 4年目
- 5 ☐ 5年目

りゅうがく かいごふくししやうせいこう りゅうがくせい
留学(介護福祉士養成校の留学生)

- 6 ☐ 1年目
- 7 ☐ 2年目
- 8 ☐ 3年目
- 9 ☐ 4年目
- 10 ☐ 5年目以上

かいご かいごふくししやうせいこう そつぎやうせい
介護(介護福祉士養成校の卒業生)

- 11 ☐ 1年目
- 12 ☐ 2年目
- 13 ☐ 3年目
- 14 ☐ 4年目
- 15 ☐ 5年目

ぎのうじっしゅう
技能実習

- 16 ☐ 1年目
- 17 ☐ 2年目
- 18 ☐ 3年目
- 19 ☐ 4年目
- 20 ☐ 5年目

とくていぎのう
特定技能

21 ☐ 1年目^{ねんめ}

22 ☐ 2年目^{ねんめ}

23 ☐ 3年目^{ねんめ}

24 ☐ 4年目^{ねんめ}

25 ☐ 5年目^{ねんめ}

次へ

0

50

100(%)

Q2

ねん 2024年1月 こっかしけん に国家試験 じゅけん を受験 まえ する前に、う 受けたことがある にほんご 日本語の試験 しけん は何 なん ですか。
(いくつでも)

- 1 ☐ にほんごのうりよくしけん 日本語能力試験(JLPT)
- 2 ☐ にほんご 日本語NAT TEST
- 3 ☐ じつよう J.TEST 実用日本語検定
- 4 ☐ た その他
- 5 ☐ にほんご 日本語の試験 しけん を受けたことがない う

次へ

0 50 100(%)

Q2_1

にほんごのうりょくしけん

日本語能力試験(JLPT)で、ごうかく合格したレベルはどれですか。

1 ☐ N1

2 ☐ N2

3 ☐ N3

4 ☐ N4

5 ☐ N5

次へ

0

50

100(%)

Q2_2

にほんご 日本語NAT TESTで、ごうかく 合格したレベルはどれですか。

1 ☐ 1級

2 ☐ 2級

3 ☐ 3級

4 ☐ 4級

5 ☐ 5級

次へ

0

50

100(%)

Q2_3

J.TEST 実用日本語検定で、合格したレベルはどれですか。

- 1 ☐ 特A級 とく きゅう
- 2 ☐ A級 きゅう
- 3 ☐ 準A級 じゅん きゅう
- 4 ☐ B級 きゅう
- 5 ☐ 準B級 じゅん きゅう
- 6 ☐ C級 きゅう
- 7 ☐ D級 きゅう
- 8 ☐ E級 きゅう
- 9 ☐ F級 きゅう
- 10 ☐ G級 きゅう

次へ

0

50

100(%)

Q2_4

にほんごのうりよくしけん にほんご じつようになほんごけんてい
日本語能力試験(JLPT)/日本語NAT TEST/J.TEST 実用日本語検定

じょうきいがい ごうかく ぐたいてき しけん なまえ ごうかく おし
上記以外で合格した、具体的な試験の名称と、合格したレベルをおしえてください。

しけん なまえ
試験の名称

ごうかく
合格したレベル

次へ

0

50

100(%)

<あなたが日本に来る前のことを答えてください>

Q3

さいご い がっこう
最後に行った学校はどこですか。

- 1 ☐ こうとうがっこう こうこう
高等学校(高校)
- 2 ☐ せんもんがっこう
専門学校
- 3 ☐ たんきだいがく
短期大学
- 4 ☐ だいがく だいがくいん
大学・大学院
- 5 ☐ その他(具体的に:)

次へ

0

50

100(%)

Q4

Q3で回答した学校で看護や介護の勉強をしましたか。

- 1 ☐ 看護の勉強をした
- 2 ☐ 介護の勉強をした
- 3 ☐ どちらも勉強した
- 4 ☐ どちらも勉強していない

次へ

0

50

100(%)

Q5

日本にほんに来る前くまえに、働はたらいたことがありましたか。

1 ☐ ある

2 ☐ ない

次へ

0

50

100(%)

Q5_1

どんな仕事しごとでしたか。

- 1 ☐ 看護かんごや介護かいごの仕事しごと
- 2 ☐ ほかの仕事しごと

次へ

050100(%)

2. あなたの^{しごと}仕事や^{しょくば}職場について^{こた}答えてください

Q6

2024年1月に^{ねん}国家試験を受^{がっ}験した^{こっか}時、^{しけん}働いていた^{じゅけん}施設・事業所は、^{とき}次のうちどれです^{はたら}か。^{しせつ}^{じぎょうしょ}^{つぎ}

◆^{こうれいしゃふくしぶんや}高齢者福祉分野

- 1 ☐ ^{つうしょかいご}通所介護
- 2 ☐ ^{つうしょ}通所リハビリテーション
- 3 ☐ ^{たんきにゆうしょせいかつかいご}短期入所生活介護
- 4 ☐ ^{たんきにゆうしりょうようかいご}短期入所療養介護
- 5 ☐ ^{とくていしせつにゆうきよしゃせいかつかいご}特定施設入居者生活介護
- 6 ☐ ^{にんちしょうたいおうがたつうしょかいご}認知症対応型通所介護
- 7 ☐ ^{しょうきぼたきのうがたきょたくかいご}小規模多機能型居宅介護
- 8 ☐ ^{にんちしょうたいおうがたきょうどうせいかつかいご}認知症対応型共同生活介護
- 9 ☐ ^{かんごしょうきぼたきのうがたきょたくかいご}看護小規模多機能型居宅介護
- 10 ☐ ^{とくべつようごろうじん}特別養護老人ホーム(介^{かい}護老人福祉施設^{ろうじんふくししせつ})
- 11 ☐ ^{かいごろうじんほけんしせつ}介護老人保健施設
- 12 ☐ ^{かいごいりょういん}介護医療院
- 13 ☐ ^{た こうれいしゃふくしかんけいしせつ}その他高齢者福祉関係施設

◆^{しょうがい(じ)しゃふくしぶんや}障害(児)者福祉分野

- 14 ☐ ^{しょうがいしゃしえんしせつ}障害者支援施設
- 15 ☐ ^{きょうどうせいかつえんじょ}共同生活援助
- 16 ☐ ^{せいかつかいご}生活介護
- 17 ☐ ^{しょうがいじにゆうしょしせつ}障害児入所施設
- 18 ☐ ^{たしょうがいしゃ}その他障^{しょうがい}害者・障^{しょうがい}害児関係施設^{かんけいしせつ}

◆^{いりょうぶんや}医療分野

- 19 ☐ ^{びょういん}病^{しんりょうじょ}院・診^{しんりょうじょ}療^{しんりょうじょ}所

◆^たその他

20 ☐ その他^た

21 ☐ 働^{はたら}いていない

22 ☐ わからない

次へ

0

50

100(%)

Q7

2024^{ねん}年1^{がつ}月に国家試験を受験^{こっかしけん}する前^{じゅけん}に、受^{まえ}けたことがある研^う修^{けんしゅう}はどれですか。
(いくつでも)

- 1 ☐ 介護職員初任者研修^{かいごしょくいんしよにんしゃけんしゅう}
- 2 ☐ 介護福祉士実務者研修^{かいごふくししじつむしゃけんしゅう}
- 3 ☐ 喀痰吸引等研修^{かくたんきゅういんとうけんしゅう}
- 4 ☐ 認知症介護基礎研修^{にんちしょうかいごきそけんしゅう}
- 5 ☐ いずれも受^うけたことがない

次へ

0 50 100(%)

かいごふくししこっかしけん う とき き も こた
3.介護福祉士国家試験を受けた時の気持ちについて教えてください

Q8

ねん がつ かいごふくししこっかしけん う りゆう なん
2024年1月に介護福祉士国家試験を受けた理由は何ですか。(いくつでも)

- 1 ☐ せんもんしよく かいご ちしき ぎじゆつ え
専 門 職として介護の知識・技術を得るため
- 2 ☐ せんもんしよく みと
専 門 職として認めてもらうため
- 3 ☐ しかく しゆとく きゆうりよう あ
資格を取得することで、給 料が上がるため
- 4 ☐ にほん かいごしよく はたら つづ
日本で介護職として働き続けるため
- 5 ☐ にほん しゆうしよく てんしよく ゆうり
日本での就 職・転 職に有利なため
- 6 ☐ にほん なが す つづ
日本で長く住み続けたいため
- 7 ☐ にほん かぞく よ よ
日本に家族を呼び寄せたいため
- 8 ☐ しょうらい しゅっしん くに ちいき かいご しごと
将 来、出 身の国・地域で介護の仕事をしたいため
- 9 ☐ た ぐたいてき
その他(具体的に:)
- 10 ☐ とく
特になし

次へ

0

50

100(%)

4.介護福祉士国家試験のための勉強について教えてください

Q9

介護福祉士国家試験受験のために、どのような教材を使いましたか。(いくつでも)

◆テキスト・資料等

- 1 ☐ 国際厚生事業団(JICWELS)のホームページに「EPA介護福祉士候補者向けテキスト」として紹介されている教材
<国際厚生事業団(JICWELS)のホームページ>
https://shop.jicwels.jp/view/category/all_items
- 2 ☐ 介護福祉士養成校の教科書、学校で配布された資料
- 3 ☐ 日本介護福祉士会「外国人のための介護福祉専門用語集」
- 4 ☐ 日本介護福祉士会「外国人のための介護福祉士国家試験一問一答」
- 5 ☐ 日本介護福祉士会「介護の日本語」テキスト
- 6 ☐ 国際交流基金『外国人のための看護・介護用語集 日本語でケアナビ』
- 7 ☐ 国際人材協力機構『外国人のためのやさしい介護〔テキスト版〕(介護の施設や仕事がよくわかる!)]
- 8 ☐ 勤務先やアルバイト先の施設や法人、監理団体、登録支援機関が作成した資料

◆Webコンテンツ・動画

- 9 ☐ 国際厚生事業団(JICWELS)がEPA介護福祉士候補者用eラーニング上で配信した動画講義等
- 10 ☐ 国際厚生事業団(JICWELS)が作成した動画(例:令和5年度国内座談会、「介護福祉士国家試験」合格に向けた日本語学習、「介護福祉士国家試験」徹底解説、外国人の「介護福祉士国家試験」合格者座談会)
- 11 ☐ 日本介護福祉士会「にほんごをまなぼう」

◆その他

- 12 ☐ その他(具体的に:)
- 13 ☐ 何も使わなかった

次へ

Q10

介護福祉士国家資格を取得するため、どのような研修やセミナー、勉強会等を受講しましたか。(いくつでも)

- 1 ☐ EPA介護福祉士候補者向け 訪日前日本語研修
- 2 ☐ EPA介護福祉士候補者向け 訪日後日本語等研修
- 3 ☐ EPA介護福祉士候補者向け 集合研修やオンラインライブ講義
- 4 ☐ 介護福祉士養成校が在校生向けに行う研修や勉強会
- 5 ☐ 介護福祉士養成校が卒業生向けに行う研修や勉強会
- 6 ☐ 外国人介護人材向け 介護福祉士国家資格取得のための講座やセミナー
- 7 ☐ その他(具体的に:)
- 8 ☐ 受講したことはない

次へ

0 50 100(%)

Q10で、がいこくじんかいごじんざいむ 外国人介護人材向け かいごふくししこっかしかくしゅとく 介護福祉士国家資格取得のための こうぎ 講座や う セミナーを受けた方 かた にお伺い うかが します。

Q10_1

その こうぎ 講座や かいさい セミナーはどこが開催したものでしたか。 (いくつでも)

- 1 ☐ にほんかいごふくししかい 日本介護福祉士会・ とどうふけんかいごふくししかい 都道府県介護福祉士会
- 2 ☐ こくさいこうせいじぎょうだん 国際厚生事業団(JICWELS)
- 3 ☐ にほんかいごふくししやうせいしせつきやうかい 日本介護福祉士養成施設協会(介 養 協)
- 4 ☐ じちたい 自治体(とどうふけん 都道府県、 しちやうそん 市町村)
- 5 ☐ じやうきがい 上記以外の きぎやう 企業・ だんたい 団体
- 6 ☐ その他(た 具体的に:)
- 7 ☐ わからない

次へ

0

50

100(%)

Q11

介護福祉士国家資格を取得するため、職場もしくはアルバイト先の施設や法人、
 監理団体、登録支援機関にどのようなことをしてもらいましたか。(いくつでも)

- 1 ☐ 施設や法人の職員に、勉強を教えてもらった
- 2 ☐ 日本語の先生に、日本語を教えてもらった
- 3 ☐ 試験対策講座やセミナーを紹介してもらった
- 4 ☐ 勉強の目標や計画を決めてもらった
- 5 ☐ 勤務時間やシフトの調整をもらった
- 6 ☐ 介護福祉士国家試験の受験料を負担してもらった
- 7 ☐ 日本語学校や日本語教室の費用を負担してもらった
- 8 ☐ 試験対策講座やセミナーの受講料を負担してもらった
- 9 ☐ テキストや問題集などの費用を負担してもらった
- 10 ☐ ほかの外国人職員と一緒に勉強する機会を与えてもらった
- 11 ☐ その他(具体的に:)
- 12 ☐ 特に何もしてもらわなかった

次へ

0

50

100(%)

Q12

介護福祉士国家資格を取得するため、支援してほしかったこと、これから支援してほしいことを教えてください。(いくつでも)

- 1 ☐ 職員に、勉強を教えてください
- 2 ☐ 日本語の先生に、日本語を教えてください
- 3 ☐ 試験対策講座やセミナーの紹介
- 4 ☐ 勉強の目標や計画を決めてもらうこと
- 5 ☐ 勤務時間やシフトの調整
- 6 ☐ 介護福祉士国家試験の受講料の負担
- 7 ☐ 日本語学校や日本語教室の費用の負担
- 8 ☐ 試験対策講座やセミナーの受講料の負担
- 9 ☐ テキストの費用負担
- 10 ☐ ほかの外国人介護スタッフと一緒に勉強する機会の提供
- 11 ☐ その他(具体的に:)
- 12 ☐ 特にない

質問は以上です。

ご協力ありがとうございました。

送信

0

50

100(%)

(参考) 調査画面イメージ

令和5年度指導者養成研修受講者フォローアップ調査

メッセージ

本調査は、令和5年度に指導者養成研修を受講された方を対象にご協力をお願いするものです。お忙しいところ恐縮ですが、事業の改善のためにぜひご回答いただきますようお願い申し上げます。(所要時間は2～5分程度です。)

＜ご回答は令和7年2月14日（金）17時までにお願いたします。＞

■本調査のご回答について

本アンケートでご回答いただいた内容は、本アンケートの分析のために利用させていただきます。ご回答内容はすべて統計的に処理いたしますので、個々のお答えが他に知られることはありません。安心してご回答ください。

■個人情報の取り扱いについて

Q1でお聞きする個人情報への回答は任意です。以下に記載する個人情報の取り扱いについてご同意いただける場合にご回答ください。

＜Q1. にご回答いただく場合＞

- ・お預かりする個人情報は、本アンケートの分析のために利用させていただきます。ご回答内容はすべて統計的に処理いたしますので、個々の調査結果や回答が他に知られることはありません。
- ・お預かりする個人情報は、当社の「個人情報保護方針」<<https://www.murc.jp/corporate/privacy/>>および「個人情報の取り扱いについて」<<https://www.murc.jp/corporate/privacy02/>>に従って適切に取り扱います。
- ・お預かりしている個人情報の開示、訂正、利用停止等、もしくは、利用目的の通知のご請求、または個人情報に関する苦情のお申し出、削除等のお申し出、その他のお問い合わせにつきましては、下記までご連絡ください。
三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 社会政策部
(担当：平田 hirata@murc.jp)
- ・個人情報をご記入いただけない場合であっても、集計から除外するなど、不利な取り扱いをすることは一切ございません。

同意文/ボタン

削除

上記にご同意いただける場合、ご回答をお願いいたします。

同意する

回答をやめる

回答する

Q1.

「個人情報の取扱について」にご同意いただける場合は、ご所属の法人・団体名、お名前、ご連絡先をお答えください。

ご所属の組織名

お名前

メールアドレス

(E-mail)

Q2. あなたのご所属として、もっとも近いものを1つだけ選んでください。(1つだけ選択)

*

外国人介護人材受入法人・事業所

介護福祉士養成施設

日本語教育機関

関係団体・機関

行政機関

その他

Q3. 以下の設問では、平成5年度に参加いただいた指導者養成研修等についてお聞きします。
あなたが参加した指導者養成研修の開催地を選んでください。(1つだけ選択)

- 茨城会場 (2023年12月7日)
- 京都会場 (2023年12月18日)
- 広島会場 (2023年12月26日)
- 回答したくない

Q4. 受講いただいた指導者養成研修で学んだことは、その後の活動のなかで役立っていますか。(1つだけ選択)

*

- とても役立っている
- 役立っている
- どちらともいえない
- あまり役立てられていない
- まったく役立てられていない
- 外国人材に学習支援をする機会がなかった

[編集](#) [削除](#) この質問を表示する条件 "Q4" で "外国人材に学習支援をする機会がなかった" を "選択した"

Q5. 外国人材に学習支援をする機会がなくても、指導者養成研修を受けてよかったことや、役立ったことがあればぜひお答えください。

ご意見・ご要望

[編集](#) [削除](#) 他の選択肢と同時に選べない選択肢 "役立てられているものはない"

Q6. 受講いただいた指導者養成研修で学んだことのうち、その後の活動のなかで役立っているものがあればお答えください。(あてはまるもの全てを選択)

* (複数選択)

- 在留資格・主要な送出国に係る基礎知識
- 外国人介護人材が介護福祉士国家資格を取得することの意義
- 介護福祉士国家資格取得までの支援 (①介護)
- 介護福祉士国家資格取得までの支援 (②日本語)
- 介護福祉士国家資格取得までの支援 (③学習環境整備)
- 外国人教育者チームとして他施設に助言をする際の留意点
- 参加者同士の意見交換
- その他

役立てられているものはない

[編集](#) [削除](#) この質問を表示する条件“Q4”で“外国人材に学習支援をする機会がなかった”を“選択しなかった”

Q7.

指導者養成研修を受講したことで、外国人材の学習支援について何か変化はありましたか（研修の影響で新たに始めたこと、改善したことなど）。（1つだけ選択）

*

はい

いいえ

どちらともいえない

[編集](#) [削除](#) この質問を表示する条件“Q7”で“はい”を“選択した”

Q8. （Q7で「はい」を選択した方に）どのような変化があったか、ぜひ教えてください。（自由にご記入ください）

（外国人材の学習支援への変化）

[編集](#) [削除](#) この質問を表示する条件“Q4”で“外国人材に学習支援をする機会がなかった”を“選択しなかった”

Q9. 指導者養成研修を受講したことは、外国人介護人材の学習支援に何かよい影響を及ぼしましたか。（1つだけ選択）

*

はい

いいえ

どちらともいえない・わからない

[編集](#) [削除](#) この質問を表示する条件“Q4”で“外国人材に学習支援をする機会がなかった”を“選択しなかった”

Q10. Q9でそのようにお答えになったのはなぜですか。できるだけ具体的にお答えください。（自由にご記入ください）

Q9の回答の理由

Q11.

指導者養成研修を受講したことをよりよく活かしていくためには、どのようなことが必要と思いますか。できるだけ具体的にお答えください。（自由にご記入ください）

必要と思うこと

Q12.

今後受けたい研修や、必要な支援等がありますか。あれば、できるだけ具体的にお答えください。（自由にご記入ください）

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

京都民際日本語学校の取組について

■日時 : 2025/3/12 (水) 14:00~15:00

■出席者 : 株式会社京都民際 京都民際日本語学校

厚生労働省、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング

1. 京都民際日本語学校の概要

- ・ 京都民際日本語学校（本校）は、学校全体で介護分野に注力している。特定技能制度が始まり、卒業後の進路として、介護分野への就職を考える学生が増え始めた。どのように介護分野に対応するか考える中で、取組が拡大してきた。
- ・ グループの中に、登録支援機関があり、（介護以外の分野も含めた）特定技能外国人の受入れを行っている。（株式会社 U-side : <https://uside.co.jp/company/>）
- ・ 介護分野の場合、介護福祉士国家試験に合格しないとビザを延長できず、帰国しなければならないので、オンライン講座など、国家資格取得支援も推進していきたいと考えている。
- ・ 留学生（約 600 人）の出身国・地域はミャンマー、ネパールが多く（それぞれ約 100 人）、その他、スリランカ、タイ、フィリピン、中国、韓国、フランスなど。

2. EPA 介護福祉士候補者受入れ施設への日本語教師派遣

(1) 概要

- ・ 某介護事業者が運営する 2 施設（特別養護老人ホーム 1 施設（大阪府）、老人保健施設 1 施設（京都府））に、日本語教師を派遣している（日本語クラス）。EPA 介護福祉士候補者に、日本語と国家試験対策授業を行っている。
- ・ 来日後 3 年間のうち、最初の 1 年から 1 年半で日本語能力を N3、もしくは N2 に引き上げる。週 1 回 3 時間、施設によってはもう 3 時間教えてほしいと言われることもある。国家試験対策は、週 1 日 6 時間をかけて行う。
- ・ 日本語クラスについては、現在 6 名。うち 2027 年度国家試験受験予定者が 1 名、2028 年度受験予定者が 5 名。国家試験対策授業については、2025 年 1 月までは 2025 年度受験者が 7 名いた。2026 年度は 4 名が受験予定である。（人数は 2 施設計）
- ・ 近隣の施設には訪問して対面授業を行い、遠方の施設も含む混合クラスはオンライン授業を行っている。

(2) 授業の内容

- ・ 日本語クラスは、日本語能力試験（JLPT）対策をしている。その後、国家試験対策授業に移る前に 3 か月、介護の語彙などを集中的に覚える期間を設ける。国家試験対策授業

では、中央法規のテキストや過去問を使って教える。

(日本語クラス)

- ・ 入学時に日本語ベーシックテストをした上で、当校の日本語講師が最終面接をしてクラス分けをする。法人側としては追加費用がかかるが、分けたほうが効率的である。例えば4名とも同じレベルであれば1クラス、日本語能力に差があれば2クラスに分けて、各レベルにあわせたテキストを用いて教える。2クラスに分ける場合、1クラスはN3レベルの問題をどんどん進めるクラス、もう1クラスはN4の復習をしながらN3を目指すクラスとする。
- ・ レベルが下のクラスであっても、日本語だけずっと学んでいる訳にはいけないので、1年半で国家試験対策授業に移ってもらう。1年半が日本語の区切りで、それ以上は日本語の勉強はしない。しかし、上のクラスが予定通りに授業が進むのに比べて、下のクラスはなかなか予定通りにはいかず、ひとつひとつに躓き、説明が必要である。
- ・ 働きながら授業に出ている人に課題(宿題)は出しづらいので、3時間の中で出来ることを支援している。

(国家試験対策授業)

- ・ 国家試験対策授業は、本校の日本語教師で、介護福祉士や看護師、社会福祉士の資格も有している者が講師を担当しているのが本校の特徴である。やさしい日本語を用いながら、徐々に難易度の高い内容を教えることができる。(日本語教師+介護福祉士1名、日本語教師+看護師2名、日本語教師+社会福祉士1名、計4名)
- ・ 2018年から介護分野に注力し始めたが、その時在籍していた日本語教師が、たまたま介護福祉士の有資格者だったので、ダブルライセンスの保有者を採用することになった。この方は現在も在籍しているが、元々は介護福祉士で、後で日本語教師の資格を取得した。外国語が好きで、外国人に日本語を教えることに興味があったと聞いている。

(3) 介護福祉士国家試験合格のために必要な日本語学習時間

- ・ 週1回3時間の授業をしているが、国家試験合格にはそれだけでは足りない場合もある。来日時の日本語能力による。来日時にN3に合格している人であれば、週1回3時間で1年～1年半でN2まで上がり、国家試験の問題も読み込めるようになるが、来日時にN4レベルの復習が必要という人が、1年でN3に到達するのは難しい。
- ・ 来日時にN3に合格しているような人は、すきま時間に勉強するなど、自分の勉強スタイルができていいる。一方、N4レベルに到達していない人は勉強スタイルができていないし、日本語のベーシックなところにも弱かったりする。
- ・ N2から「アカデミックジャパニーズ」のレベルになっていく。そのため、大学進学要件もN2である。N2レベルでは、テキストのアカデミックな言葉もすんなり頭に入るが、N3では難しく、やさしい日本語で教える必要がある。介護福祉士国家試験対策

は、どんなにやさしい日本語を使ったとしても、アカデミックジャパニーズのレベルになるので、N3 で合格するのはかなり厳しいと思う。

- ・ 順調に語学を習得できる人の特徴は、エラーをおそれず、疑問に思ったことを質問してくれる学生である。日本語クラスの授業で答え合わせをした後に、「どうしてこうなるか分からない問題があったら、説明するから教えてほしい。」とって時間をとる。そうすると、徐々に質問が出てくるようになる。手が挙がらない場合は、間違えやすい問題の説明をすると、解説してくれることが理解できたのか、質問が出るようになった。

(4) 日本語の勉強方法

- ・ ノートの半ページに母国語、半ページに日本語を書いて勉強する方法がみられるが、N3 レベルになると母国語と日本語が合わなくなってくることが多い。ずっと母国語に頼りすぎるのも問題があり、母国語と同じ意味だからよいと思って使った日本語が誤解を生む可能性もある。
- ・ 母国語と日本語の勉強がマッチングできるのは N5 のサバイバルジャパニーズまで。N4 になると、周囲のことが視界に入り、説明できるようになる。そこに自分の母国語を入れるとうまく意思疎通出来ない。N3 くらいからは母国語から離れていってほしい。

3. 日本語学校の留学生に対する取組

(日本語学校留学生に介護事業所のアルバイトを紹介)

- ・ 留学生が介護事業者就職する前に、本当に介護に適性があるか、人生を決めてよいかを見るために、日本語学校在学中から近所の介護事業所にアルバイトとして雇ってもらうようにしている。例えば、1日4時間で掃除やベッドメイクなど環境整備の仕事をし、手が空いたらお茶出しをしたり、利用者とコミュニケーションをとったりしている。
- ・ 現在30名程度の学生が、特別養護老人ホームや老人保健施設でアルバイトをしている。これらの学生は、日本語学校卒業後は介護福祉士養成校に進学したり、介護事業所に就職したりする。
- ・ 介護事業所でアルバイトをする学生の中には、日本語学校在学中から介護分野に就職したいと思っている人もいる。そのような学生を中心に受け入れている面もある。一方、最初は介護に興味がない学生でも、アルバイトのひとつとして介護事業所を紹介することもある。介護事業所でのアルバイトは日本語を勉強するのに向いている。
- ・ 修学資金貸付制度について、学生が申請する際に保証人が必要となるが、なかなか留学生の保証人となる介護事業者(法人)はみつからない。そこで、まずはアルバイトで本人の資質を見てもらい、お互いを知ってから介護福祉士養成校進学段階で保証人になってもらう。学生にとっても、施設にとっても、よいマッチングの機会となっている。

もしそこでのマッチングが難しければ、他のスポンサー実績のある施設に、介護事業所での就労経験をアピールしつつ、話をもっていく。

- ・ 介護事業者が、介護福祉士養成校に外国人材の紹介を依頼するケースが多いが、その段階では既に保証人がついて、就職先が決まっていることが多い。介護福祉士養成校に入学する前に、本校のような介護分野に取り組む日本語学校と繋がらないと、人材を確保できない。

（アルバイトを受け入れる介護事業者の特徴）

- ・ 日本語が N5 レベルでも採用してくれる法人もあれば、N3 レベルを求めるところもある。アルバイトでもハードルがまだまだ高い。掃除やベッドメイクなど、日本語ができなくてもできる仕事があるはずなので、受入れ法人が増えることを目指し、草の根活動をしている。
- ・ アルバイトをする中で、どんどん日本語能力がレベルアップする。しばらくしたら食事介助、入浴介助ができる学生もいるので、最初のハードルは低くしてほしいと思う。
- ・ アルバイトを受け入れてくれる法人の特徴は、外国人材の受入れに慣れていることと、仕事の整理ができていること、教育するスタッフがいることが挙げられる。

（留学生に対する効果）

- ・ 留学生は、介護施設で働いているだけで、介護の仕事に携わっていると思えてモチベーションが上がる。利用者と話をするなど、あれだけ日本語を話す機会の多い仕事はない。
- ・ 当校の留学生は日本語学校在学中からアルバイトをしているので、介護福祉士養成校卒業時にはかなり業務に慣れている。また、在学中に介護職員初任者研修（講師：京都保育福祉専門学院 岡本匡弘副学院長）も受講してもらう。介護福祉士養成校に進学する前に初任者研修が修了しているので、他の日本語学校からの学生よりもリードした状態で進学することになる。

（卒業生の動向）

- ・ まだ介護分野に取り組んで日が浅いので、昨年やっと 1 名が、学校のマッチングを通して介護福祉士養成校を卒業し介護施設に就職した。
- ・ 連携している施設とは、日本語学校の留学生のアルバイト先である、グループ内の登録支援機関が支援する特定技能外国人の受け入れ先であるなど、常に何かで関わっているので、今後はその施設に当校から介護福祉士養成校に進学し卒業した学生が、就職することになると思う。
- ・ 法人側も、一度ネパールの学生を受け入れて好印象の場合、またネパールの人の紹介を希望したり、ミャンマーの学生が友人を連れてきたり、どんどんつながっていく印象がある。

4. 行政との連携

- ・ 社会福祉法人京都府社会福祉協議会 京都府外国人介護人材支援センター（以下「外国人介護人材支援センター」という。）から委嘱を受け、留学生や外国人に関する専門家として外国人介護人材支援センターに助言をしたり、日本語教師を派遣してセミナーを開催したりしている。
- ・ 外国人介護支援人材センターと月 1 定例会議を行い、どうしたら外国人介護人材が安心して業務に従事できる環境づくりの支援ができるかなどについて助言している。
- ・ 外国人介護人材支援センターと協力して介護事業者に同行訪問し、アルバイトの受け入れ先、特定技能の就職先を開拓している。
- ・ 年に 1～2 回、外国人介護人材支援センターに来てもらって介護の仕事を紹介したり、日頃おつきあいのある職場の見学ツアーを開催して、介護の仕事への関心を高める取組もしている
- ・ 地域の事業所とつながる中で、今後はその事業所から、日本語の指導や国家試験合格支援も依頼されるよう取組を進めていきたい。

以上

広島県の取組について

1. 広島県が実施する指導者養成の取組の概要

- ・ 2024年9月21日（土）、10月26日（土）の2回、「外国人介護福祉士資格取得支援指導者養成研修」を東部会場（尾道市）、西部会場（広島市）で開催した。
- ・ 実施内容は昨年度のモデル事業とほぼ同じである。異なるのは、時間がモデル事業より長く10時から17時としたこと、東部と西部の2会場で実施したこと、修了証を発行したことである。研修資料は、去年のものを参考に作成した。

**令和6年度広島県地域医療介護総合確保事業
外国人介護福祉士資格取得支援指導者養成研修**

介護福祉士国家資格取得を目指す外国人介護職員に対し、適切な学習支援が行われるよう、介護事業所・施設等の担当職員に国家試験受験までの学習支援体制や適切な指導方法に関する知識・技能を身に付けてもらうことを目的とした研修会です。
※令和5年度には、厚生労働省のモデル事業として実施しております。

広島県初の開催！ **参加しやすい2会場**

○主催 一般社団法人広島県医療福祉人材協会
○共催 広島県
○実施団体 尾道福祉専門学校

1.日時
○東部会場 令和6年9月21日（土）10:00～17:00
○西部会場 令和6年10月26日（土）10:00～17:00

2.場所
○東部会場 尾道福祉専門学校（尾道市久保町1760-1）
○西部会場 広島県社会福祉協議会（広島市南区北治山本町12-2）

3.対象者
広島県内の介護事業所・施設等に勤務する職員で、外国人介護職員への指導を担っている職員等。
○各会場の定員：25名（計50名）
※お申込み多数の場合は、調整させていただきますので、御了承ください。

4.参加費
無料

5.講師
外国人サポートチーム
※令和5年度モデル事業の修了者他

6.研修内容
○在留資格・主要な送出国に係る基礎知識
○外国人介護人材が介護福祉士国家資格を取得することの意義
○介護福祉士国家資格取得までの支援（①介護、②日本語、③学習環境整備）

7.申込み

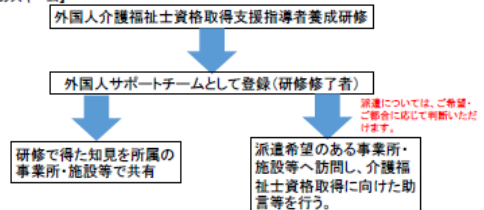
申込み締め切りは、令和6年8月31日（土）まで
こちらのURLもしくはQRコードからお申込みください。
<https://forms.office.com/r/uZQfDEyhMe>



8.その他

当該研修の修了者には、修了証を交付し、原則、「外国人サポートチーム」へ登録していただきます。外国人サポートチームでは、介護事業所等の職員に対して、外国人への介護福祉士取得支援に関する相談への助言等を行います。今後、外国人サポートチームの中から、ご協力いただける方のみ、サポーターの派遣希望のある介護事業所・施設等へ訪問していただき、介護福祉士資格取得に向けた助言等をしていただきます。

【事業のスキーム】



【介護事業所・施設等への派遣スケジュール等】

(1) 日 時：令和6年10月～令和7年3月の期間中

(2) 実施方法：介護事業所・施設等へ訪問、又は、オンラインによる実施

※派遣を希望する介護事業所・施設等の募集については、別途案内を送付する予定です。

―県内 2 か所での開催について

- ・ 開催地域を 2 か所に分けたのは、東部の方に西部の会場に来てもらうのは負担が大きいことが理由で、この研修に限らず分けて行うことが多い。
- ・ 東部会場は尾道福祉専門学校、西部会場は広島県社会福祉協議会である。
- ・ 研修修了者が個別の施設に出向く派遣方式は今回もとりにれたが、メインは研修修了者が所属施設内での周知する形であると思われる。研修修了者がすぐに他の施設に出向くのはなかなか難しい面がある。

―所用時間について

- ・ 昨年度の実施報告書を研修実施機関に送り相談したところ、この量の研修をするならば昨年度より長めの時間は必要ではないかということになった。

―講師について

- ・ 県内の尾道福祉専門学校と、IGL 医療福祉専門学校に依頼した。
- ・ 原則モデル研修の修了者としているが、日本語については介護の知識も必要であり、修了者ではない方も含まれる。

―修了証へのニーズ

- ・ 参加者の声を踏まえ、この研修を修了したことを証明するものとして「修了証」を発行することとした。県からではなく、研修実施機関から発行してもらった。

―派遣型に代わる方式について

- ・ 昨年度のスキームは派遣方式であったが、派遣される人も通常業務がある。先方に出向いて助言するより、まずは相談先として登録してもらう方が進めやすいと考える。

以上

広島県・尾道さつき会の取組について

■日時：2025/3/7（金）17:00～18:00

■出席者：社会福祉法人尾道さつき会 法人本部人事課 豊田美絵氏
厚生労働省、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング

1. 広島県「外国人介護福祉士資格取得支援指導者養成研修」

(1) 概要

- ・ 広島県では、令和6年度広島県地域医療介護総合確保事業「外国人介護福祉士資格取得支援指導者養成研修」（以下「指導者養成研修」という。）として、介護福祉士国家資格取得を目指す外国人介護職員に対し、適切な学習支援が行われるよう、介護事業所・施設等の担当職員に国家試験受験までの学習支援体制や適切な指導方法に関する知識・技能を身につけてもらうことを目的とした研修会を実施した。
- ・ 研修修了者には修了証を交付し、原則「外国人サポートチーム」に登録してもらった。外国人サポートチームは、サポーターの派遣希望のある介護事業所・施設等を訪問し、職員に対して、外国人の介護福祉士国家資格取得に向けた助言等を行った。
- ・ 実施団体（事務局）は、社会福祉法人尾道さつき会 尾道福祉専門学校（以下「尾道福祉専門学校」という。）が務めた。校長の邑岡氏を中心に、令和5年度モデル事業（老人保健健康増進等事業）（以下「モデル事業」という。）を受講した豊田氏が介護分野の講師、（介護分野以外の）講師の選定や依頼等を担当した。
- ・ 当日の参加者数は各会場 25 名程度。法人数は 15 程度で、複数名で参加する法人もみられた。

<広島県「外国人介護福祉士資格取得支援指導者養成研修」の概要>

- 日時：（東部会場）令和6年9月21日（土）、（西部会場）令和6年10月26日（土）
- 場所：（東部会場）尾道福祉専門学校、（西部会場）広島県社会福祉協議会
- 対象者：広島県内の介護事業所・施設等に勤務する職員で、外国人介護職員への指導を担っている職員等
- 定員：各 25 名（計 50 名）
- 主催・実施団体：（主催）一般社団法人広島県医療福祉人材協会
（実施団体）尾道福祉専門学校
- 研修内容：在留資格・主要な送出国に係る基礎知識、外国人介護人材が介護福祉士国家資格を取得することの意義、介護福祉士国家資格取得までの支援（①介護、②日本語、③学習環境整備）

（出所）広島県提供「指導者養成研修」チラシより

(2) 令和5年度モデル事業との共通点・変更点

① 共通点

－カリキュラムや教材はモデル事業を活用

- ・ 指導者養成研修のカリキュラムや教材については、基本的にモデル事業のものを活用し、参加者の状況を踏まえてアレンジを加えた。(以下②参照)

② 変更点

－東部・西部の2会場で開催

- ・ モデル事業では1会場（広島駅前）の開催であったが、東部の介護事業所・施設等の職員が参加しやすいよう、東部・西部の2会場で開催した。他の研修も広島市内で開催されることが多いが、東部からは遠いため、アクセスしやすい場所で開催してほしいという思いがあった。

－定員は1会場あたり25名

- ・ 少人数で和気あいあいと開催したいと考え、1会場あたりの定員はモデル事業の半分の25名とした。

－事前の情報収集

- ・ 参加者への事前アンケートにて、外国人材の受入れや学習支援について困っていることを尋ねた。指導者養成研修は介護福祉士国家資格取得支援を目的としているが、参加者からは「これから外国人材を受け入れようとしている」「外国人材の受入れ体制が出来ていない」という声が多かった。また、日本語能力向上のための支援について、助言を求める声が多かった。

－モデル事業の経験や参加者の状況を踏まえて、より分かりやすく説明

- ・ 「介護福祉士国家資格取得までの支援（①介護）」の教材はモデル事業のものを利用したが、初めての参加者には分かりづらいと思われるところは、より具体的かつ丁寧に説明するなどの工夫をした。
- ・ モデル事業で説明のあった、過去の国家試験問題の解説をそのまま伝えることは出来なかったが、介護福祉士養成施設における留学生教育や日本介護福祉士養成施設協会の研修に携わった経験等を踏まえて、外国人材が間違いやすいポイント等を伝えた。

－外国人材受入れ法人・施設の取組事例を紹介

- ・ 外国人材の受入れや学習支援に係る具体的な取組事例があると分かりやすいと考え、2法人に依頼し、指導者養成研修で発表してもらった。外国人材受入れからの流れについては、モデル事業に参加した株式会社不二ビルサービスに依頼した。

ー修了証の発行

- ・ 指導者養成研修の受講者に対して、(モデル事業にはなかった)修了証を発行した。修了証があるほうが、外国人サポートチームへの所属意識が高まると考えた。

(3) 指導者養成研修 講師の選定・依頼

ー地域の専門性を持つ人材を集める

- ・ 「介護福祉士国家資格取得までの支援 (①介護)」は、社会福祉法人尾道さつき会 (以下「尾道さつき会」という。) の豊田氏が務めた。
- ・ 「介護福祉士国家資格取得までの支援 (②日本語)」については、学校法人 IGL 学園 IGL 医療福祉専門学校の協力を得た。同校には日本語学科があり、介護福祉学科と連携している。指導者養成研修当日は、同校の日本語教師が講師を務めてくれたことに加え、介護福祉学科の教員も参加し専門用語等についてフォローをしてくれたことで、参加者の満足度が高かった。

<学校法人 IGL 学園 IGL 医療福祉専門学校について>

- 1993 年創立。2014 年 4 月、IGL 健康福祉専門学校と IGL 医療専門学校を統合し、「IGL 医療福祉専門学校」を開設。
- 介護福祉学科、歯科衛生学科、鍼灸学科、柔整学科のほか、留学生向けの日本語学科、国際教養コミュニケーション学科がある。定員は、介護福祉学科 (2 年制) 40 名、日本語学科 (2 年コース、1 年半コース) 280 名。
- 月曜日を #FreeMonday (フリー・マンデー) とし、学生が自由にやりたいことを選んで使える 1 日としている (介護福祉学科は、カリキュラム・修学年限の都合上 1 年次のみ)。国家資格を取得するための授業は、火曜日から金曜日の週 4 日に集約し、月曜日は、授業以外の内容や卒業生から学べる “#FreeMonday 講座” (無料講座) や、自主的な勉強会、実技の練習会を行っている。その他、部活やアルバイト、休んで充電することも O.K. としている。

(出所) IGL 医療福祉学校ホームページより (<https://www.igl.ac.jp/>)

(4) 外国人サポートチームの派遣

- ・ 「外国人サポートチームの派遣」については 12 件 (法人) からの応募があり、うち 8 件を訪問した。うち 4 件についてはこれから外国人材を受け入れる法人で、国家資格取得支援の趣旨に合わなかったため今回は対象外とした。
- ・ 今年度の指導者養成研修修了者は、修了間もないこともあり外国人サポートチームの派遣には参加せず、豊田氏と IGL 医療福祉専門学校の日本語教師 (8 件のうち 2 件) で対応した。現地訪問のほか、オンラインで助言することもあった。

ー日本語の支援が現場の課題

- ・ 訪問した法人では、外国人材の日本語能力が伸びない、どのように指導・支援したらよいか分からないという相談が多かった。
- ・ 各施設・事業所で外国人材に指導はしており、外国人材本人が「はい、分かりました。」と答えるので理解していると思っていたが、しばらくして確認すると実は理解が不十分だったということがあるようだ。そうすると今度は職員が注意することが多くなり、外国人材のモチベーションが下がってしまう。

ー他の外国人材受入れ法人・施設の情報を知る機会になる

- ・ 介護現場では、他の受入れ法人・施設の情報を知る機会がほとんどない。指導者研修や外国人サポートチームの派遣を通じて情報を得ることは、今後の取組の参考になるとのことだった。また、他の受入れ法人・施設も自分と同じようなことで悩んでいることを知り、安心することもあるようだった。

ー指導者養成研修参加者による所属法人・施設内での共有がポイント

- ・ 指導者養成研修に参加するのは管理職が中心で、日常業務の中で外国人材に接する職員が参加するとは限らない。その場合、指導者養成研修の内容をどのように所属法人・施設の職員に伝えるか、どのように現場に落とし込むかがポイントとなる。
- ・ 今回、外国人サポートチームの派遣としてある施設に訪問すると、施設側では指導者養成研修を実施してくれるものと大勢の職員が集まっており、急遽研修を実施したことがあった。

2. 日本介護福祉士会「外国人介護人材のための介護福祉士国家資格取得支援講座」

(1) 概要

- ・ 公益社団法人日本介護福祉士会では、全国 39 地域において、都道府県介護福祉士会を実施主体とし、「外国人介護人材の介護福祉士国家資格取得支援講座」（以下「国家資格取得支援講座」という。）を開催した。
- ・ また、上記 39 地域で実施される国家資格取得支援講座に参加することが困難な方を対象に、日本介護福祉士会を実施主体とし、モデル的にオンライン講座を実施した。
- ・ 広島県では、令和 6 年 8 月から 12 月にかけて全 5 日間の国家資格取得支援講座を開催した。

＜広島県「外国人介護人材のための介護福祉士国家資格取得支援講座」の概要＞

- 主催・実施：（主催）公益社団法人日本介護福祉士会
（実施）一般社団法人広島県介護福祉士会
- 日時：1回目令和6年8月4日（日）、2回目令和6年9月8日（日）
3回目令和6年10月19日（土）、4回目令和6年12月8日（日）
5回目令和6年12月15日（日）
- 場所：トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校
- 受講対象者：以下の要件に該当する者 ※日本国籍の者を除く
 - ①令和6年度介護福祉士国家試験受験予定者もしくは受験資格を有する者
 - ②日本語能力N3程度の者
 - ③全5日間の受講が可能な者
- 定員：15名

（出所）一般社団法人広島県介護福祉士会ホームページ

「外国人介護人材のための【介護福祉士国家資格取得支援講座】」より

<https://hiro-kaigo.com/events/2023-9-12.html>

（2）実施上の課題や気づき

－外国人材本人と受入れ法人・施設の意識共有

- ・ 広島県の国家資格取得支援講座の中で、同じ法人に所属する外国人材数名が事前連絡なしに欠席することがあった。法人は参加していると思っており、外国人材本人と受入れ法人・施設の認識が異なっていた。
- ・ これら数名はおそらく受入れ法人・施設から言われて参加している可能性があり、参加意識の点で温度差があったのではないかと感じた。外国人材に国家資格取得後も同じ法人・施設に定着してもらうためには、受入れ法人・施設職員との日頃のコミュニケーションやつながりが重要ではないかと感じた。

－多様な在留資格の外国人材がともに学ぶ環境づくり

- ・ 広島県の国家資格取得支援講座には、留学生、技能実習生、特定技能外国人と在留資格の異なる外国人材が参加していた。おそらくそれぞれの学習環境や習熟度も異なる中で、グループワークでの発言内容や頻度に違いがみられることもあった。多様な外国人材がともに学び、皆が満足するような環境づくりが求められているが、なかなか難しい問題であると感じた。

3. 尾道さつき会「オノフク式外国人介護福祉士国家試験対策講座」

(1) 背景と目的

- ・ 尾道さつき会は、1978 年に知的障害者授産施設の設置運営を目的に設立され障害者福祉事業を運営していたが、現在は高齢者福祉事業、介護福祉士養成施設（尾道福祉専門学校）も運営している。外国人材については、2024 年 4 月から、技能実習生 4 名を受け入れたところである。
- ・ 尾道福祉専門学校では、現在のところ、留学生は受け入れていない。今後の留学生受入れに向けた経験やノウハウの蓄積のため、また、養成校として地域の外国人材のために何か支援ができないかと考え、「オノフク式外国人介護福祉士国家試験対策講座」（以下「オノフク式対策講座」という。）を開講することとした。
- ・ 法人本部の豊田氏は、来年度からオノフク式対策講座を担当する予定であり、前職で留学生の教育に携わった経験も有している。前職では技能実習生や特定技能外国人と接する機会は少なかったが、尾道さつき会に転職後は技能実習生の「介護導入講習」にも携わっている。技能実習生は限られた時間で学び、現場での就労を開始しているため、学んだことと実際の利用者の状態を結び付けることが出来ていない人もみられる（例：認知症の利用者を見ても、認知症であることがしばらく分からない）。受入れ法人・施設の指導者の指導力が求められていると感じている。

<「オノフク式外国人介護福祉士国家試験対策講座」の概要>

- 開講期間：2025 年 4 月～2026 年 1 月 毎月 2 回（全 20 回）
- 受講対象者：次のすべてに該当する人
 - ①2026 年 1 月、または 2027 年 1 月に介護福祉士国家試験を受験する予定の外国人介護職員
 - ②日本語能力試験（JLPT）N3 以上を取得している方、または、N3 レベルの方
 - ③所属法人の協力と同意を得られる方
 - ④1 年間頑張ろう！という気持ちを持っている方
- 定員：20 名
- 受講料金：（オンライン講座）月ごとの領域別で受講した場合 1 か月 5,000 円（税込）、全 10 か月受講した場合 50,000 円（税込）
（個別指導）1 か月 500 円（税込）
- 教材費：介護福祉士国家試験過去問題解説集（中央法規）3,200 円（税別）

（出所）尾道福祉専門学校ホームページ「令和 7 年度オノフク式外国人介護福祉士国家試験対策講座開催要綱」より（<https://onofuku.ac.jp/information/detail.php?UID=87>）

(2) 「オノフク式外国人介護福祉士国家試験対策講座」の特徴

－受講対象者は来年・再来年の受験予定者

- ・ これまでの経験から、外国人材が介護福祉士国家資格を取得するための準備期間は 1 年間では不足していると考えた。そのため、受講対象者を 2026 年 1 月、または 2027 年 1 月の介護福祉士国家試験受験予定者とし、2 年間かけて準備ができるようにした。

－受入れ・施設の職員を巻き込む

- ・ 指導者養成研修や国家資格取得支援講座の経験等を経て、外国人材本人に加えて、受入れ法人・施設の職員をどのように巻き込むかが重要であると考えた。受講者の学習の習慣化、身近な職員からのサポート、専門教員からの解説・サポートが組み合わさる形がベストと考えている。
- ・ そのため、オノフク式対策講座では、受講対象者の要件のひとつに「所属法人の協力と同意を得られる方」を挙げている。また、所属先職員への依頼事項として、以下 3 点を挙げている。
 - 講座で使用する資料の送付先は職場のアドレスとする。送付された資料を印刷し、受講者に渡す。
 - 受講者が学習に取り組む中で分からないこと、理解できないこと等への対応に困った時は尾道福祉専門学校に相談する。
 - 「学習チェック表」にて、受講者の受講履歴、理解度の確認、課題の進捗状況を把握する。

－自己学習・オンライン受講・個別指導の併用

- ・ 毎月 2 回の講義は、受講者が働きながら、また遠方からでも参加できるよう、オンライン開催とした。
- ・ 受講者は毎月 10 日までに課題を提出し（①自己学習：できれば所属先職員に課題を見てもらう）、毎月 10 日～30 日までの間に開催される講義をオンラインで受講する（②オンライン受講）。また、2 か月に 1 回、個別指導（来航またはオンライン）の機会も設けている（事前申し込みが必要。希望者のみ）。

－受講しやすい受講方式・料金の設定

- ・ 事前にリサーチをして、受講料を外国人材本人が負担できる価格帯に設定した。受講者の意欲、学びたい気持ちになるべく応えたいと考えている。また、月ごと・領域別の受講も可としている。

(3) 申込状況

- ・ 申込期間は 2025 年 2 月 1 日～28 日で、2025 年 3 月 7 日現在の申込者数は 6 名。在留資格は技能実習 4 名、特定技能 2 名。出身国・地域はミャンマー、ベトナム、インドネ

シアとなっている。

また、2025 年度（第 38 回）受験予定者と 2026 年度（第 39 回）受験予定者の両方、過去に受験経験がある人となない人の両方が含まれている。

- ・ 6 名の受入れ法人・施設数は 3 法人で、広島市内や福山市内及び県北の法人である。
- ・ 外国人材が受講しやすい料金に設定したつもりだが、もしかしたら受講を迷う要因になっているかもしれない。
- ・ 2024 年度（第 37 回）介護福祉士国家試験の結果次第で、もし不合格だったら参加したいという問合せも来ており、4 月の開講時点ではもう少し人数が増えている可能性もある。

(4) 今後の見込み・課題等

- ・ オノフク式対策講座を担当する養成校教員の中には、外国人の指導が初めての人もいる。最初とはまどうことがあるかもしれないが、豊田氏の経験等を活かし、協力しあいながら運営していきたい。

以上

(参考：令和7年度「オノフク式外国人介護福祉士国家試験対策講座」チラシ)

オノフク式 外国人介護福祉士 国家試験対策講座





介護福祉士養成校教員による直接指導
働きながらも受講しやすいオンライン授業
2025年4月～2026年1月まで月2回ペースの授業



同じ目標を目指す 仲間と頑張ろう

対象者 2025年度もしくは2026年度介護福祉士国家試験受験予定の方
定員 20名
申込期間 2月1日～2月28日 ▶▶▶ 申込方法は裏面へ

受講料金

月ごとの領域別での受講した場合
1か月 5,000円(税込み)
【2025年4月～2026年1月】全10か月受講した場合
50,000円(税込み)

受講前説明会

受講生と施設職員さん一緒に受けてください(参加できない場合はお知らせください)
日時：3月12日(水) 13:30～15:30
場所：尾道福祉専門学校 (尾道市久保町1760-1) 駐車場あり
これから一緒に目標に向かって頑張る仲間との交流を目的に、本校で対面にて行いますのでご参加ください。これからの学習の進め方、施設職員さんに協力してもらいたいこともお伝えさせていただきます。



社会福祉法人尾道さつき会
尾道福祉専門学校

open/9:00-17:00 定休日/土日祝
担当：豊田・重岡
邑岡(むらおか)



<https://onofuku.ac.jp>

広島県尾道市久保町1760-1 ☎ 0848-37-2222 📠 0848-20-7122



受講のイメージ

授業スケジュール
内容の詳細はこちら



授業の流れ

1

課題

毎月10日までに課題を提出（出来れば職員
さんに課題を確認してもらってください）

2

オンライン授業

課題を基に10日～30日までの間で講義を実施
1回目10：00～12：00 2回目18：00～20：00

（スケジュール例）2025年4月

日	月	火	水	木	金	土
30	31	1 課題	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16 授業 10:00-12:00	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30 授業 18:00-20:00	1	2	3

授業の内容

領域①～領域④を各月に振り分けて実施します

領域①「人間と社会」 領域②「こころとからだのしくみ」

領域③「介護」 領域④「医療的ケア」「総合問題」



申込にあたってのご注意を確認の上、申込用QRコードから申込をお願いします

申込にあたってのご注意

- 授業は、Zoomミーティングを使用したライブ配信で行います。スマートフォン・タブレット・PC等のデバイス、オンライン環境（カメラ・マイク等）は各自または職場でご準備ください。
- 定員を超過した場合は受付を終了させていただきます。
- 授業の流れについての受講前説明会を尾道福祉専門学校にて開催しますので、必ず施設職員さんと一緒に参加してください。
- 授業日等はやむをえず変更となる可能性があります。変更が生じた場合には事前に連絡をします。

申込用QRコード



QRコードを読み取って入力してください



社会福祉法人尾道さつき会
尾道福祉専門学校

open/ 9:00-17:00 定休日/土日祝

担当：豊田・重岡・呂岡（むらおか）

● 広島県尾道市久保町1760-1 ☎ 0848-37-2222 📠 0848-20-7122

株式会社不二ビルサービスケア事業部の取組について

■日時 : 2025/3/14 (金) 9:00~10:00

■出席者 : 株式会社不二ビルケアサービス ケア事業部
三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング

1. 外国人介護人材の受入れ状況

(1) 受入れ人数等

- ・ ケア事業部には、現在 20 名の外国人材が在籍している。出身国・地域はベトナムが最も多いが、インドネシア、カンボジア、フィリピン、フランスと、多様な国・地域の出身者が一緒に働いている。
- ・ 2025 年 4 月には 6 名の外国人材が入社予定で計 26 名になる。26 名になると当社正社員に占める外国人材の割合が 1 割を超える。
- ・ 外国人材の年齢は 20 代から 30 代前半が多いため、配属先事業所の職員の平均年齢が下がった。受入れ事業所の職員から、年齢の若い外国人材が配属されたことで職場の雰囲気明るくなったと聞いている。

(2) 採用の現状

- ・ 在留資格については、技能実習からの移行、海外からの直接受入れに加えて、国内他産業からの転職と「特定技能」が増えている。
- ・ コロナ禍における他産業から当社への転職者は、コロナが収束するとまた元の産業に戻っていったが、最近では他職種からの転職者も定着している。また、技能実習を修了して帰国したものの、再度日本で働くため、介護分野の特定技能評価試験を受ける者も増えている印象がある。他産業への就職が上手くいかなかった留学生が特定技能評価試験を受けて応募してくる例や、日本語学校の卒業生もみられる。介護分野は待遇が安定しており求人数が多く、不況の際も仕事がなくならないと認識されているようだ。
- ・ 応募のきっかけは、当社で就労している外国人職員の紹介や口コミが多い。一般に、最近介護分野でベトナム人材が採用しづらくなったと言われているが、弊社は問題なく採用することが出来ており、地域のベトナム人材のネットワークの中で一定の評価を得ていると思われる。

2. 介護福祉士国家試験取得支援の状況

(1) 介護福祉士国家試験受験の状況

- ・ 第36回介護福祉士国家試験（令和5年度）は3名受験して2名が合格した。合格した2名の日本語能力はN1相当、つまり試験を受けて合格したのはN2であるがN1を受ければ合格したと思われるレベルで、不合格の1名は直前の日本語能力試験（JLPT）でN2に合格できなかった。
- ・ 日本語能力試験（JLPT）について、介護福祉士国家試験（以下「国家試験」という。）の直前（12月）に受験するかどうかは悩ましいところがある。国家試験の勉強に集中するため、受験しない場合もある。
- ・ 日本語能力試験（JLPT）と国家試験は別物だと言われているものの、問題を解く読解力が求められるため、一定の日本語能力が必要になる。また、毎日こつこつと継続して勉強することができる人は合格できるが、勉強する習慣が身につけていない人は難しい。

(2) 学習支援の現状

- ・ 今年は、国家試験対策については、広島県介護福祉士会が実施した「外国人介護人材の介護福祉士国家資格取得支援講座」（以下「国家資格取得支援講座」という。）に参加してもらうことにした。以前は、国家試験対策も当社で指導していたこともあったが、専門家に任せたいほうがよいと考えた。全て自前で支援することは難しい。
- ・ 当社は日本語の支援に注力することとし、週1回1時間、直接指導をしている。また、国家資格取得支援講座にきちんと出席できるようシフトを調整する、開催日の翌日に様子を尋ねるなど、外国人材のモチベーションが下がらないようにしている。
- ・ もし国家試験に不合格の場合でも、当社としては引き続き合格まで支援する。ただ、周りの支援も重要であるが、やはり本人の目的意識が明確な人が合格する傾向にあると思う。

3. 広島県「外国人介護福祉士資格取得支援指導者養成研修」

(1) 概要

- ・ 広島県「外国人介護福祉士資格取得支援指導者養成研修」では、事務局（尾道福祉専門学校）の依頼を受け、主に外国人材を採用してから職場に慣れるまでの支援に関し、受入れ側の心構えや必要な準備等について講演をした。
- ・ 指導者養成研修は介護福祉士国家資格取得支援を目的としているが、参加者の約半数は「これから外国人材を受け入れようとしている」「外国人材を受け入れたばかり」という施設だった。そのような参加者は、日本語のコミュニケーションがうまくできるか、利用者に受け入れてもらえるか等の不安を抱えていたので、当社の具体的な経験やエピソードを交えて説明した。

(2) 外国人材受入れのポイント

- ・ 外国人材受入れの成功のポイントは、日本人職員のほうが多様性を受け入れられるかどうかであると考えている。
- ・ 外国人材受入れから 1 年くらい経つと、こちらの言うことがうまく伝わらない、十分に伝わっていないのに「分かりました」と言われてしまうなど、躓く施設が多い。
そのため、当社では、受入れ当初の準備もさることながら、その後の指導者側への伴走支援に注力している。現場で問題が生じた時、上手く指導ができない時などに、その原因がどこにあるのか、外国人材・指導者の双方に話を聞いて調整する作業を地道に積み重ねることが上手くいくコツであると思う。
- ・ 外国人材は、たとえ日本語の読み書きができたとしても、相手の考えを読み取り返事をするとは必ずしも得意ではない。一方、日本人には全て伝えてしまうのはよくないとする風潮があり、そこがトラブルの原因になることが多い。そのため、全てをきちんと伝えること、短い文章で分かりやすく話すことが重要であると説明した。
- ・ 経験年数の長い職員であっても、外国人材の受入れが初めての場合は戸惑うことも多い。当社の場合、受入れ事業所に伴走し助言を与える部署を法人内に設け、外国人材の指導者が相談しやすい体制を整えている。一方、そのような部署を設けるのが難しい法人には、（昨年度のモデル事業や今年度の県の事業で行われた）外国人教育者チームの派遣のような取組が有用ではないかと思う。
- ・ 外国人材の介護福祉士国家資格取得支援は重要であるが、その前の段階の外国人材受入れや定着の支援も必要であると考えている。

以上

令和 6 年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業
外国人介護人材の介護福祉士国家資格取得の
支援強化に関する調査研究事業
【報告書】

令和 7 年 3 月

発行 三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング株式会社
住所 〒105-8501 東京都港区虎ノ門５－１１－２ オランダヒルズ森タワー